

「地域貢献に関する取組み」の事例 (全67事例)

銀行名	事例名	頁
北海道	「どうぎん 親子で銀行体験」	1
北海道	「ミニほっかいどう銀行開設」	3
北海道	「エコノミクス甲子園北海道大会開催」	4
北海道	「職場体験・インターンシップ」	7
みちのく	PFI事業に対する資金支援	8
みちのく	「みちぎんキッズスクール 夏休み親子見学会」の開催	9
みちのく	全国高校生金融経済クイズ選手権「エコノミクス甲子園」青森大会の開催	10
みちのく	青森市スポーツ会館のネーミングライツ取得	11
みちのく	「カーボン・オフセット」通帳・証書の導入	12
岩手	高校生等向け金銭基礎教育プログラム「MoneyConnection〇R」の実施	13
岩手	低年齢層向けTV番組内金融教育ミニコーナー	14
岩手	プロバスケットチーム 岩手ビッグブルズ沿岸復興祈念試合への協賛 (沿岸地域の子供たちを招待)	15
七十七	東北学院大学への提供講座開設	16
七十七	全国高校生金融経済クイズ選手権「エコノミクス甲子園」宮城大会の開催	17
秋田	「県北キャリア甲子園」でマッチング商談会を開催	18
荘内	地元プロスポーツチームのスポンサー支援や各種大会の開催	20
常陽	食と旅のガイドブックやフォトコンテストを活用した観光振興への取組み	23
足利	金融教育への取組み事例	25
群馬	社会貢献活動の実施	26
群馬	環境問題への取組み	27
武蔵野	「目指せ日本一の銀行員」	28
横浜	経済・金融教育への取り組み	29
横浜	スポーツや文化・芸術分野におけるこどもの育成支援	30
横浜	環境保全活動	31
第四	「だいしアカデミー」の開催	32
北越	トキ保護活動への取組み	33
山梨中央	エコノミクス甲子園山梨大会の開催	34
山梨中央	小学校低学年 (1～2年生) 対象の金銭教育授業の実施	35
山梨中央	職場体験学習の受入れ	36
山梨中央	森林整備事業 (里地里山保全事業) の実施	37
北陸	地元大学との包括連携協定にもとづき共同テキストを出版	38
大垣共立	「OKBストリート」の誕生	39
スルガ	「SURUGA ECO ACTION」の取り組み	40
清水	静岡県立大学経営情報学部 経営情報特別講義「地域金融論」開催	41
三重	「夏休み！銀行ワドキ体験隊」の開催	42
滋賀	GREEN POWER プロジェクト「まちエネ大学 滋賀スクール」へ協賛	44
滋賀	CSRの取り組み	46
滋賀	いきものがたりプロジェクト	47

銀行名	事例名	頁
南都	金融経済教育への取組み～養護学校への講師派遣・職場実習	48
紀陽	MoneyConnection®の実施	49
中国	「科学大好き岡山クラブ」、「エコノミクス甲子園 地方大会」の開催	50
広島	金融経済教育への取組み	51
山口	社会貢献への取組み	52
阿波	青少年の金融教育に取り組んでいます	53
百十四	金融教育活動	54
百十四	フォレストマッチング協働の森づくり活動	55
百十四	「心の詩」コンサートの開催	56
伊予	環境問題への取組み	57
伊予	学生の年齢層に応じた金融経済教育への取組み	62
伊予	地域の草の根文化を保存する助成活動への取組み	65
四国	環境保全への取組み	66
筑邦	PFIの活用による定住促進と地域経済の活性化	67
西日本シティ	「キッズ・サマー・キャンプ～お金のがっこう～」の開催	68
西日本シティ	全国高校生金融経済クイズ選手権「エコノミクス甲子園」福岡大会の開催	69
西日本シティ	経済講演会の開催	70
西日本シティ	全店一斉清掃ボランティア活動「地域のNCBクリーンデー」の開催	71
西日本シティ	地域の歴史や文化を取り上げて、わかりやすく紹介する「博多に強くなろう」「北九州に強くなろう」、「九州流」の発行	72
西日本シティ	お昼休みのクラシック演奏会「プロムナードコンサート」の開催	73
北九州	地域貢献に関する各種取組み	74
親和	大学生向けマネープランセミナーの実施	75
肥後	地域経済活性化への取組み	76
大分	「別府アルゲリッチ音楽祭」のサポート実施	77
鹿児島	森林整備への取組み	78
鹿児島	金融教育への取組み	79
琉球	第11回 りゅうぎんキッズスクール	81
琉球	君の夢が沖縄の未来 りゅうぎんアントレプレナー	82
沖縄	名桜大学における講義〔継続取組み〕	83

銀行名	北海道銀行
タイトル	「どうぎん 親子で銀行体験」
取組み内容	【動機】 ・ 普段、銀行に接する機会の無い子供たちを対象に、「銀行体験」を提供し、広く金融経済教育を行うことで、地域金融機関としてCSR活動の一環として実施しているもの。 【取組み内容】 ・ 道内の子供たちが参加しやすいように、小学校の夏休みと冬休みの時期に、保護者と共に集まっていただき、下記のカリキュラムで金融の仕組みや支店の見学会などを実施している。 ・ また、第1回は本店営業部のみの開催であったが、参加者の声を反映しながら、より多くの子供たちが参加できるように、順次開催都市を拡大し、現在では道内9都市で開催している。 主なカリキュラム ① 1億円や硬貨袋を持ち上げる体験 ② 営業室・貸金庫見学 ③ お札の数え方教室 ④ 硬貨選別機体験 【取組み成果】 ・ これまで通算9回実施しており、参加者だけではなく保護者からも非常に好評を得ている。 ・ 昨年度は道内の主要9都市で実施し、各地のマスコミに取り上げられるなど、地域のイベントとして定着してきている。

北海道銀行で銀行のヒミツをいろいろ体験しよう!

1 1億円体験



1万円札が
1万枚もあるよ!

2 硬貨袋体験

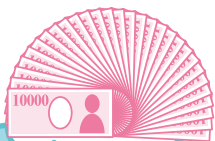


硬貨が
ずっしり入って
重たいよ!



3 札勘体験

お札を正確に数えることが
できるかな?



小学生と
保護者の方対象

どうぞ

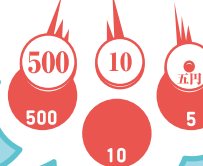
親子で 銀行体験



北海道銀行

4 硬貨選別機体験

硬貨をあつという間に
分けてしまうよ!



5

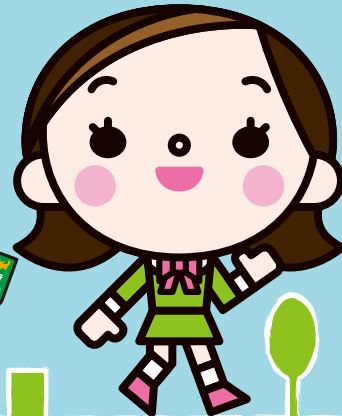
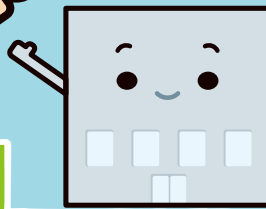
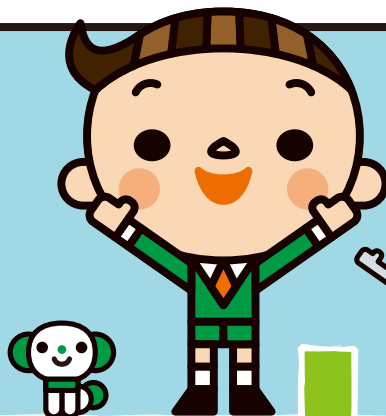
貸金庫室見学

大きな扉に
びっくり!
銀行ってすごい!



参加無料

参加には事前の
お申込みが必要と
なります。



【開催場所・日程】道内9店舗にて開催いたします。

各店・各日 10組 / 時間 9:30~11:30

北見支店

北見市北1条
西1丁目1番地

8月
1日

函館支店

函館市
本町7番18号

8月
1日

旭川支店

旭川市2条通
9丁目228番地

8月
4日

室蘭支店

室蘭市中島町
1丁目22番5号

8月
4日

帯広支店

帯広市
西3条南9丁目1番地

8月
5日

苫小牧支店

苫小牧市
表町2丁目1番14号

8月
5日

釧路支店

釧路市北大通
8丁目2番地

8月
6日

小樽支店

小樽市
稲穂2丁目8番9号

8月
6日

本店営業部

札幌市中央区
大通西4丁目1番地

8月
7日 8日 11日

参加には事前のお申込みが必要となります。▶ お申込み締切日:平成26年7月25日(金)

参加希望のお客様は当行ホームページ
「イベントのお申込み」よりお申込みください

▶ <http://www.hokkaidobank.co.jp/>



※必ず保護者の方1名以上の同伴が必要です。

※お申込みは、先着順とさせていただきますのでご了承ください。
先着当選のご連絡は、発送をもってかえさせていただきます。

※お申込みをいただきました参加希望日時につきましては、調整
をさせていただきます場合がございますのでご了承ください。

ご参加当日にお子様名義でのお口座開設をご希望の方は、
以下の書類と現金をご持参ください。

①お子様の親権者であることが確認できる公的な書類(住民票・健康保険証など)
②お子様の本人確認書類(住民票・健康保険証など) ③ご印鑑(シャチハタ以外)

詳しくはホームページ、またはお近くの北海道銀行 本・支店までお問い合わせください。

お問い合わせ先

北海道銀行 経営企画部 広報CSR室
「親子で銀行体験」事務局

Tel.011-233-1005

〒060-8676 札幌市中央区大通西4丁目1番地

主催



北海道銀行

銀行名	北海道銀行
タイトル	「ミニほっかいどう銀行開設」
取組み内容	【動機】 ・ 北海道内の各地で、会場を「仮想のまち」に見立て、参加する小学生が様々な職業を擬似体験することで、働くことの楽しさや給料を得る喜びを体感するイベントが開催されており、当行には「銀行」として、参加の要請がある。 ・ 当行はイベント趣旨に賛同できることから、地域金融機関として参加意義があると判断し、積極的に取り組んでいる。 【取組み内容】 ・ 参加する子供たちの就職先のひとつとして「ミニほっかいどう銀行」を設置している。 「ミニほっかいどう銀行」の主な仕事 ① 他の出展企業の依頼に基づき、企業へ給与（模擬紙幣）を届ける仕事 ② 売り上げ代金を集金し、窓口で入金する仕事 ・ 銀行員として必要な業務スキルを身につけることができる「ミニほっかいどう銀行研修センター」を設置している 「ミニほっかいどう銀行研修センター」での研修内容 ① お金の数え方（札勘） ② 加算機の打ち方 【取組み成果】 ・ 職業体験イベントは全道各地で実施されており、子供や保護者から期待の高い事業となっている。当行が提供するブースも毎回、満員になる他、複数回参加してくれる子供もあり、銀行業務に対する関心を高めることができた。

銀行名	北海道銀行
タイトル	「エコノミクス甲子園北海道大会開催」
取組み内容	【動機】 ・ N P O 法人金融知力普及協会は金融経済を楽しみながら学ぶ機会を高校生へ提供する試みとして、全国高校生金融経済クイズ選手権を開催している。 ・ 当行は次世代を担う高校生への金融教育に資するものと考え、北海道大会が初めて開催されるにあたり、共催として、運営全般を担うことを決めた。 【取組み内容】 エコノミクス甲子園北海道大会の運営全般。 ・ 当行が保有している研修所を大会の開催場所として提供。 ・ 当行の店舗網を活用し、北海道内の高校へ開催の周知を徹底。 ・ 図書館など高校生が集まる施設へのポスターの掲示やチラシを設置。 ・ 金融知力普及協会ホームページより参加申込可能となるように、当行ホームページに「エコノミクス甲子園」のバナーを掲載。 ・ 金融のプロとして、金融経済にかかるクイズを提供。 ・ 大会当日は行員からボランティアを募り、司会や画面操作など、進行を補助。 【取組み成果】 ・ 参加した高校生からは「金融経済が身近に感じられた」「興味が非常に湧いた」など、大きな反響があった。 ・ 当行では小中学生に対する職場体験学習、大学生に対するインターンシップは数多く実施しているものの、高校生向けのプログラムがなかったことから、C S R 活動（金融教育）の一環として、大変有意義なものとなっている。 ・ 平成 20 年度から北海道で開催されるようになってから、高校の間でエコノミクス甲子園は徐々に浸透してきており、平成 25 年度は参加高校、参加チーム共に過去最高となった。



特定非営利活動法人
金融知力普及協会
Association for the Promotion of Financial Literacy

**金融知力で
世界を目指せ!!**

全国で開催! 目指せ! ニューヨーク!

**参加
無料**

第八回 全国高校生金融経済クイズ選手権

エコノミクス甲子園

2013
北海道大会 12/8 日 開催 

開催場所 北海道銀行ほしみ研修センター



北海道銀行

5/83

第八回 全国高校生金融経済クイズ選手権

エコノミクス甲子園

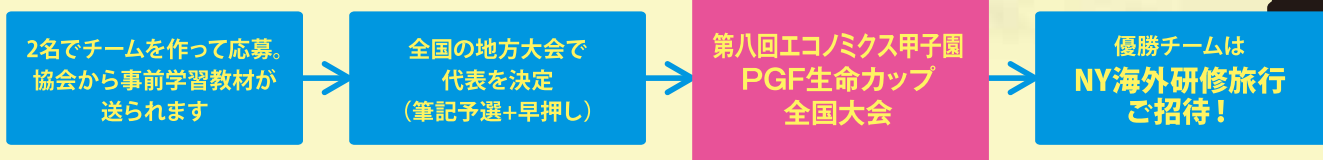
<http://econ-koshien.com>

金融
知力

金融知力ってなに？

金融知力とは、お金儲けの為の知識ではありません。世の中はどのような金融経済の仕組みで動いているかを理解し、夢の実現と生活防衛のために活かす力です。これから世の中に羽ばたくみなさんに、「金融知力」をしっかりとってもらう為に、楽しく学べるイベントを開催します。全国の高校生の皆さん、奮ってご参加ください！

大会の主な流れ



募集要項

- ・ 同じ高校の現役の生徒2名で申込みしてください。
- ・ 年齢、学年、性別等は問いません。
- ・ 高専の場合は、入学してから3年間までの生徒に限ります。
- ・ 同じ高校から何チーム出場してもOK。
- ・ 地方大会の会場までの交通費等は自己負担です。

(東京で開催予定の全国大会出場の際は、新幹線代・飛行機代・宿泊費を主催者が負担します)

参加までの流れ

1. ホームページに必要事項を入力して応募してください。
2. エントリーカードと事前学習教材が送られます。
3. エントリーカードに必要事項を記入の上、ご返送下さい。

※当日は、生徒手帳を忘れずにお持ちください。

応募は
ココから



昨年はこんな問題が出題されました

Q. 収入の多い人には高い税率が課せられ、少ない人には低い税率が課せられる租税は？

①石油石炭税 ②所得税 ③法人税 ④消費税

A. ②所得税

所得税は個人間の所得の不平等を是正するために、所得額に応じて税率を変え、高額所得者に多くの税を負擔させ、低額所得者には少ない税を負擔させる累進課税制度を採用している。したがって正解は②。③の法人税は、企業利潤に一律の税率で課税するので累進課税制度とはいえない。①・④の石油石炭税、消費税は間接税で、課税対象が生活必需品に及ぶ場合は、低所得者ほど税負担が重くなるという点で問題がある。

Q. 貿易が拡大すると、世界的に起こりやすい現象は？

①生産が増す ②相互の依存が減る
③失業者を生み出す ④生活水準が下がる

A. ①生産が増す

貿易の拡大は比較優位による国際分業を進めることになり、世界的に生産を増大させるから、正解は①。各国間の貿易の拡大は、いっそうの相互依存関係を深めるから②は誤り。また、生産の増大は雇用を生み、生活水準が向上するので③・④も誤り。

Q. 上場会社の関係者などが、会社に関連する重要事実を公表される前にその会社の有価証券の売買をすることをなんというのでしょうか？

A. インサイダー取引

この取引は、公正な価格形成を妨げるだけでなく、有価証券市場に対する投資家の信頼を損ね、ひいては有価証券市場の健全な発展を阻害することになるため禁止されている。

もし、どうしても地方大会当日に都合がつかない場合は、インターネット大会に参加できるぞ！

- インターネット大会の代表は全国から1チームです。
- 地方大会とネット大会への重複エントリーはできません。
- 同じ学校内のチームが地方大会に優勝した場合、ネット大会に優勝してもネット大会の代表になれません。この場合、ネット大会の次の順位のチームがネット大会代表となります。

北海道
大会

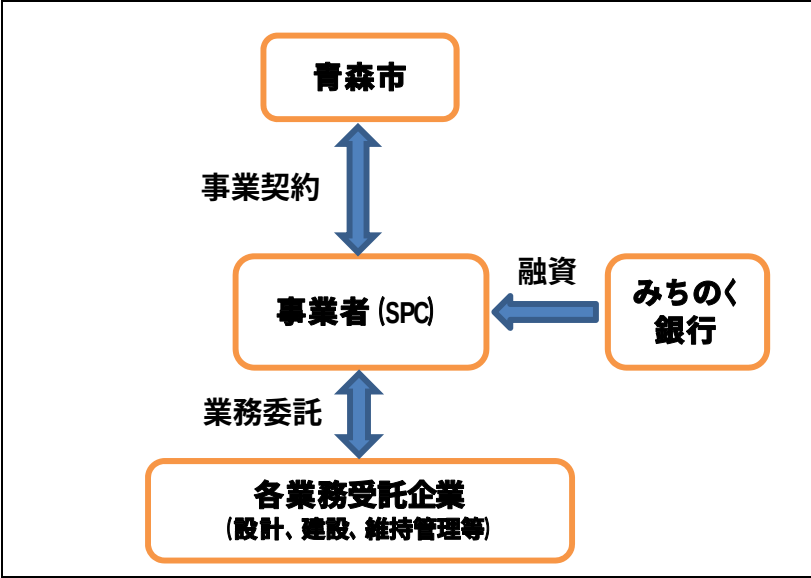
開催日時 平成25年12月8日(日) 午前10時30分～午後3時
開催場所 北海道銀行ほしみ研修センター(札幌市手稲区星置南4丁目43番5号)
お問い合わせ先 北海道銀行経営企画部広報CSR室(011-233-1005)
後援 北海道教育委員会



募集定員

30 チーム
(60名)

銀行名	北海道銀行
タイトル	「職場体験・インターンシップ」
取組み内容	【動機】 ・ 当行は次世代を担う若い世代への金融教育を通じ、中長期的な地域活性化に貢献できると考えており、その一環として、小中学生を中心に職場体験の受け入れや高校生や大学生を対象としたインターンシップ制度に積極的に取り組んでいる。 【取組み内容】 職場体験 ・ 1日で銀行の基礎を理解してもらえるカリキュラムを策定 ・ 実施内容 －金融の基礎を学ぶオリエンテーション －営業店貸金庫見学 －営業店金庫室見学 －営業店ロビー見学 インターンシップ ・ 平成25年度は本店で、数日間のインターンシップを実施。 ・ 実施内容 －専門部署による多様化している銀行業務についての講義。 －営業店実習では金庫室や貸金庫室など普段入ることができない施設を見学。 －高校生や大学生と行員の意見交流会。 【取組み成果】 ・ 職場体験を申し込み件数は年々増加傾向にあり、地域貢献の一助となっていると考えている。 ・ インターンシップ制度においても、毎年、定員を上回る募集があり、一定の評価を得ていると考えている。 ・ また、最近は道外の学生の参加もあり、多様な学生が集まることで、参加している学生がよい刺激を受けている。

銀行名	みちのく銀行
タイトル	PFI 事業に対する資金支援
取組み内容	【動機（経緯）】 ・青森市の小学校給食の調理施設は、建設から 30 年以上経過しているものもあり老朽化が顕著となっていた。 ・青森市では新たな調理施設の整備を行うべく、従来方式を含め整備方法を検討した結果、民間のノウハウの活用・コスト削減等を意図し、同市で初となる P F I による整備を決定。 ・当行では地域インフラの整備・維持管理に資する P F I 案件の組成を支援するため、本部担当者を配置し、事業主体である S P C に対し融資組成に関するアドバイス等を実施した。 【お取引先等にとっての効果】 ・当行がアレンジャー及びエージェントとして、プロジェクトファイナンスの組成を行い、S P C の資金調達を支援。 ・当行が P F I 事業のモニタリングを継続的に実施することで、青森市側では同事業に対するチェック機能の強化に繋がる。 ・平成 26 年 1 月には、内閣府・日本政策投資銀行との共催による地方公共団体向けの P F I セミナーを開催。今後も PFI の活用に関する啓蒙活動を通じ、地域インフラの整備、維持管理の支援を実施していく。  <pre> graph TD A[青森市] <--> 事業契約 B[事業者 SPC] B <--> 業務委託 C[各業務受託企業 (設計、建設、維持管理等)] D[みちのく銀行] -- 融資 --> B </pre>

行名	みちのく銀行
タイトル	みちぎんキッズスクール 夏休み親子見学会
取組み内容	【動機（経緯）】 ・将来を担う子どもたちに、普段訪れる機会の少ない銀行を実際に見学していただき、社会のなかで銀行が果たす役割やお金の大切さ・正しい使い方などを理解してもらうために実施した。 【取組み内容】 ・小学生を対象とし、以下のカリキュラムで銀行業務の説明や銀行内の見学などを実施した。 －銀行業務の説明 －紙幣の鑑定や札勘の体験 －銀行内の見学（地区センター・貸金庫室・役員室） －クイズ大会 【取組みの効果】 ・紙幣鑑定の体験やクイズ大会により、楽しく銀行業務を学んでいただくことができ、参加者からも高評価をいただいている。

銀行名	みちのく銀行
タイトル	全国高校生金融経済クイズ選手権「エコノミクス甲子園」青森大会の開催
取組み内容	【動機（経緯）】 ・社会にでる前の高校生に、世の中がどのような金融経済の仕組みで動いているか理解して読み解き、「自分のライフデザイン」や「自分とお金の関わり方」を考えてもらうきっかけとするために実施した。 【取組みの内容】 ・高校生に楽しみながら金融経済を学んでもらうためのクイズ大会で、青森県では初めての地方大会を当行が主催した。 －筆記クイズ －早押しクイズ －ボードクイズ 【取組みの効果】 ・今回、地方大会初開催であったが、11校24チームが参加し、アンケート結果でも高評価をいただいた。

銀行名	みちのく銀行
タイトル	青森市スポーツ会館のネーミングライツ取得
取組み内容	【動機（経緯）】 ・ 青森市が募集した「青森市スポーツ会館のネーミングライツ・スポンサー」に応募し、同市が開催した「命名権者選定会議」における提案内容の審査の結果、「命名権交渉者」として選定された。 【取組みの内容・効果】 ・ ネーミングライツ・スポンサーとなることで、カーリング、柔道やサッカーなどのスポーツ競技を通じて、『将来を担う子どもたちの夢が叶い青森から世界に羽ばたいてほしい』との思いをこめ、当施設の愛称を「みちぎんドリームスタジアム」と決定した。 ・ 今回、青森市と5年間のネーミングライツ・スポンサー契約をしており、ネーミングライツ料は青森市のスポーツ振興に関する事業費に充当される。この結果、当施設内にあるカーリング場の利用期間が2ヶ月間延長される予定。

銀行名	みちのく銀行
タイトル	「カーボン・オフセット」通帳・証書の導入
取組み内容	【動機（経緯）】 ・当行は環境保全活動の一環として、青森県が発行する『青森県県有林Ｊ－ＶＥＲクレジット』をクレジット（50ｔ）を購入しており、新通帳・証書の導入にあたり使用した。 【取組み内容・効果】 ・青森県県有林の「Ｊ－ＶＥＲクレジット」を用いて、製造工程で排出された二酸化炭素をカーボン・オフセットし、環境面に配慮した通帳・証書を導入した。さらに、次のような特長もある。 （通帳） －「ＦＳＣ認証」の木材を使用した用紙で作成 －「植物油インク」の使用 －表紙に「紙クロス」を使用 －「カラーユニバーサルデザイン」の認証取得 －「ユニバーサルデザインフォント」の導入 （証書） －「ユニバーサルデザインフォント」の導入

銀行名	岩手銀行
タイトル	高校生等向け金銭基礎教育プログラム「MoneyConnection®」の実施
取組み内容	【動機（経緯）】 （１）当行の金融教育施策のひとつとして、株式会社新生銀行とＮＰＯ法人育て上げネットの協力のもと、高校生等向けの金銭基礎教育プログラム「MoneyConnection®」を実施している。 （２）このプログラムは、若年層のニート化予防を目指して、高校生などを主な対象に働くこととお金、将来について考えるきっかけの提供を目的に、ワークショップ形式で実施するもの。 【取組内容】 （１）プログラムの特色（「稼ぐ」編） ①「お金と働き方」を考える“きっかけ”を作る ②「生きていくために必要なお金」を“リアルに体験”させる ③「生徒参加型体験プログラム」なので生徒が“楽しく参加”できる （２）プログラムを通じて伝えたいこと ①生きていくためにはお金が必要 ②自分の可能性を広げるための貯蓄も大事 ③将来の生活をイメージして慎重に働き方（進路）を選択 【取組効果（実績）】 （１）２/１８（火）岩手県立大槌高校 72 名 （２）６/２３（月）私立盛岡誠桜高校 42 名

銀行名	岩手銀行
タイトル	低年齢層向けＴＶ番組内金融教育ミニコーナー
取組み内容	【動機（経緯）】 当行の金融教育のうち低年齢層向けの施策として、子供向け地元ＴＶ番組「らどんぱ！」内でご当地ヒーロー「鉄神ガンライザー」が登場する金融教育ミニコーナーを実施している。 【取組内容】 （１）このコーナーは、低年齢層の学童が楽しみながら学べるよう、「鉄神ガンライザー」に登場するキャラクターがお金にまつわる豆知識的なことを紹介する１分間のアニメコーナーとなっている。 （２）番組放送 テレビ岩手 子供向け番組「らどんぱ！」 毎週日曜 朝 ７：００～７：３０ 毎週月曜（再放送）夕方 ３：５５～４：２５

銀行名	岩手銀行
タイトル	プロバスケットチーム 岩手ビッグブルズ沿岸復興祈念試合への協賛(沿岸地域の子供たちを招待)
取組み内容	【動機（経緯）】 被災地復興支援および、当行ＣＳＲ活動（スポーツ協賛事業）の一環 【取組内容】 (１) 当行がスポーツ協賛している、bjリーグ加盟の岩手ビッグブルズからの提案を受け、「子供たちがプロスポーツを観戦することで、未来への展望と新たな活力を持って欲しい」という趣旨に賛同し、沿岸被災地で唯一実施されるホームゲーム「沿岸復興祈念試合」に協賛し、沿岸地域の子供たち251名を試合に招待した。 (２) そのほか、当行が主催する初のボランティア活動として、当行のバスケットボール同好会がボランティアとして参加し試合をサポートした。

銀行名	七十七銀行
タイトル	東北学院大学への提供講座開設
取組み内容	【動機（経緯）】 ・ 東北学院大学は、平成21年4月に経済学部（経済学科、経営学科）から経営学科を分離独立させ、経営学部（経営学科）を設置。経営学部に金融分野等にかかる外部講師による講座の開設を計画。 ・ 当行では、従来から地域における金融教育の推進に注力していたが、地域経済の発展と人材育成に資する教育研究を通じて、さらなる地域への社会貢献を図ることを目的に、東北学院大学へ提供講座を開設。 【取組み内容】 ・ 講座名称：総合講座Ⅱ（株式会社七十七銀行提供講座） ・ 講義内容：主に当行の主要業務の概要および地域経済における地方銀行の役割についての講義（預金業務、貸出業務、国際業務他） ・ 開設期間：平成25年度後期（9月～1月） ・ 講義回数：15回（1講義90分）うち当行行員講義12回、担当教授講義3回 ・ 受講者数：251名（参考：平成24年度191名、平成23年度155名） 【取組みの効果】 ・ 受講者数は年々増加している。 ・ 出席率も良く、受講学生のアンケート結果をみると、「理解できた」「興味がもてた」との意見が9割超となっており、講義内容についての評価は概ね良好であった。また、毎回の講義に対する感想や意見などをフィードバックさせ、質問事項等は次回講義時に回答を配布した。

銀行名	七十七銀行
タイトル	全国高校生金融経済クイズ選手権「エコノミクス甲子園」宮城大会の開催
取組み内容	【動機（経緯）】 ・ 人生設計や生活防衛に不可欠な金融経済知識を習得する教育事業を行うことを通じて、地域への社会貢献を推進する観点から、特定非営利活動法人金融知力普及協会との共催により、全国高校生金融クイズ選手権「エコノミクス甲子園」宮城大会を開催した。宮城大会の開催は今回で5回目となる。 【取組み内容】 ・ 開催日：平成 25 年 12 月 15 日（日） ・ 会 場：当行本店 4 階大会議室 ・ 参加者数：県内 12 校から 26 チーム 52 名が参加 ・ 競技内容 金融経済に関する時事問題や専門分野等からクイズ問題を出題。筆記クイズと早押しクイズによる予選を行い、上位 6 チームが決勝に進出。ボードクイズによる決勝を行い、優勝チームが全国大会へ出場。 【取組みの効果】 ・ 参加校、参加者ともに過去最多と同数であった。 ・ 参加者へのアンケート結果をみると、「参加して楽しかった」との意見が 9 割超となっていることから、大会開催についての評価は概ね良好であった。 ・ また、「大会をきっかけに金融・経済に興味がわいた」との意見が 8 割超、「高校生が金融・経済を学ぶことは必要」との意見が 9 割超となっており、金融経済教育の必要性の意識付け等に効果があった。

銀行名	秋田銀行
タイトル	「県北キャリア甲子園」でマッチング商談会を開催
取組み内容	【経緯】 ・ 県北地域の小・中・高等学校が日頃行っている地域の特性を活かした各種活動に対して、地域や企業、行政が一体となって応援するために「県北キャリア甲子園」（秋田県主催）が開催されることになった。 ・ 開催にあたり、大館市教育委員会および実施主体である秋田県北NPO支援センターから当行に対して、各校の活動に協力してくれそうな企業の選定および擬似商談のセッティング依頼があった。 【取組み内容】 ・ イベント当日は、県北地域の小・中・高等学校 11 校 62 名の生徒らが参加し、日頃行っている地域活性化プロジェクトについてプレゼンテーションを行ったほか、プロジェクトの実現について地元企業と擬似商談を実施した。 ・ 当行は協力機関として、県北の小・中・高等学校と地元企業との商談をコーディネートするなど、マッチング面でのサポートを実施し、キャリア教育の実現に向けた協力を行った。 ・ 具体的な実施事項は次のとおり。 ○ お取引先の来場誘致、商談依頼 ○ 商談セッティング（11 の小・中・高等学校と県内企業 21 社で 33 の商談を設定） ○ 商談タイムスケジュールの作成 ○ 当日の来場者、商談企業の対応 【取組み効果】 ・ 参加した生徒らはこれまで接する機会のなかった食品加工、包装資材販売、商品開発を手がける事業者等と「商談」することができたほか、農産物の栽培など日頃取り組んでいる活動について具体的なアドバイスをもらうことができた。 ・ 商談企業からも、「自社のCSRの一環として参加したが、生徒らの業界の常識にとらわれない斬新なアイデアを聞くことができ、今後の事業を行ううえで、非常に有益であった。」といった感想をもらうことができた。 ・ 当行はこれまで「エコノミクス甲子園」の開催や当行職員が講師となって秋田県内の小・中学校を訪問し、「お金のはたらき」などについて授業を行うなど、積極的に金融経済教育を実施してきたが、本件は、当行がこれまで培ってきた商談会・ビジネスマッチングのノウハウをキャリア教育の一環として活用してCSRを行った事例である。

あきた協働フェスタ

県北の食に関するキャリア教育実践校が大集合!!



2014
1月25日 土 10:00 ~ 15:00

ルネッサンスガーデンプラザ杉の子 3階「飛天の間」

〒017-0043 秋田県大館市有浦 1-7-55

内 容 「講 演」(テーマ:食育)

全国農業協同組合連合会秋田県支部
営農支援部営農支援課

参与 泉 牧子 氏



「出場校のプレゼンと企業応援」

キャリア教育の取り組みについての
プレゼンテーションに対する、参加
企業の協力応援

「マッチング商談会」

出場校と応援企業との真剣勝負の場

主 催 秋田県

実施主体 特定非営利活動法人 秋田県北NPO支援センター

協 力 株式会社 秋田銀行

後 援 秋田県教育委員会・能代市教育委員会・大館市教育委員会
鹿角市教育委員会・大館商工会議所

お問合せ 秋田県北NPO支援センター 0186-49-8553



県北キャリア甲子園

来て!見て!応援して!
未来の活動大商談会

銀行名	荘内銀行
タイトル	地元プロスポーツチームのスポンサー支援や各種大会の開催
取組み内容	【取組み内容】 ・当行はスポーツを通じた地域活性化に積極的に取り組んでおり、野球振興においては、地域の企業と共同で中山公園野球場（山形県野球場）のネーミングライツを取得（平成 29 年まで）。 ・また、当行は楽天イーグルス公式スポンサーとして「楽天イーグルス応援定期預金」や「楽天イーグルス 日本一おめでとう！定期預金」を販売するとともに、プロ野球公式戦「荘内銀行ナイター」や楽天のコーチを招いた野球教室を開催した。 ・サッカーを通じた地域活性化への取組みでは、山形県を本拠地にするモンテディオ山形の公式スポンサーとして「スポーツ応援定期預金 モンテディオ山形熱血応援団 2014」を販売したほか、店頭スタッフがモンテディオ山形のレプリカユニフォームを着用して業務を行う「モンテディオ山形ユニフォーム着用応援デー」を実施するなど、地域の皆さまと共に熱い声援を送っている。 ・その他にも、山形県少年選抜U-10 のサッカー大会である「荘内銀行頭取杯」や、「荘銀カップ争奪 西村山地区ジュニア卓球大会」も開催している。  

【 環境保全への取り組み 】

県内各地のクリーン作戦に参加



鶴岡地区クリーン作戦



酒田地区クリーン作戦



蔵王クリーン作戦(山形)

第38回全国育樹祭を応援しています。



育樹祭の開催PR (荘銀かねやま絆の森)



プランターを製作
金山町に寄贈!

荘銀かねやま絆の森

【平成26年度の活動】

4月5日(土)に、同じ金山町・林業パートナーで森づくりに取り組む企業との合同企画として、当行を含め県内企業5社の役職員・家族などが雪山ハイクや金山杉の皆伐体験に取り組んだほか、製材所見学や木工クラフト体験にも取り組みました。



かんじきで雪山ハイク



フコの伐採現場を見学



伐採したスギの枝打ち体験



製材所見学



森の感謝祭2013・育樹祭フレイベントでフーズ出展



環境配慮型店舗の設置

太陽光発電設備を備えた店舗をオープン
(ときめき通り支店、あかねヶ丘支店)



ATMの省エネ対応

当行の全ATMには「**省電力対応モード**」が設定されており、電力需要の削減に協力しています。

環境保全団体への助成(やまがた社会貢献基金への寄付)

やまがた社会貢献基金に対して平成25年から3年間に渡り寄付を行い、環境保全に取り組む団体を支援します。テーマを「**荘内銀行 次代につなぐ山形の豊かな自然**」とし、「森」、「川」、「海」と川上から川下へとつながる山形県民の活動を支援していきます。



25年度は、全国育樹祭のつし活動「**金山みどりいっばい緑化事業**」と「**ECOハウス設置プロジェクト**」に助成を行いました。
7月28日に金山町で開催された第38回全国育樹祭フレイベントのセレモニーにおいて、目録を贈呈させていただきました。

【 地域活動団体への助成 】



- ◆ 真に豊かで潤いのある地域社会を築くため、**公益信託荘内銀行ふるさと創造基金**を設置し、**自発的活動に助成金を贈呈**しています。
- ◆ **平成13年に創設**して以来、着実に実績を積み重ね、少しずつではありますが、地域に浸透し、頼りにされる基金になりつつあります。

<助成の対象となる事業>



学校教育活動



社会教育活動



文化活動

これまでの助成件数(応募件数)

平成13年度	16件(48件)	平成20年度	42件(104件)
平成14年度	13件(67件)	平成21年度	33件(75件)
平成15年度	17件(47件)	平成22年度	41件(121件)
平成16年度	22件(78件)	平成23年度	39件(109件)
平成17年度	28件(79件)	平成24年度	37件(117件)
平成18年度	31件(73件)	平成25年度	42件(142件)
平成19年度	37件(92件)	平成26年度	47件(113件)

- 新たな「地方の時代」に向けて、**県内各地域の特性を活かした、自主的・主体的な取り組み**を応援しています。
- 基金の創設以来、県内各地の団体より1,265件ものご申請をいただき**445先に総額9,385万円の助成**を行なってまいりました。
- 平成24年度からは、これまで基金を助成した先の中から継続的・発展的な活動を行ってきた団体を顕彰する「**荘内銀行ふるさと創造基金 地域貢献大賞**」を新たに設立し顕彰を行っております。

【スポーツ振興の取組み】

楽天イーグルスを応援

山形県の野球振興に資するため、山形県野球場の**ネーミングライツスポンサー**を平成29年まで日新製薬(株)様と共同で取得しています。また、当行は楽天イーグルス公式スポンサーとして「**楽天イーグルス応援定期預金**」や「**楽天イーグルス 日本一おめでとう！定期預金**」を販売いたしました。

略称は、「**荘銀・日新スタジアム**やまがた」です



楽天イーグルスのコーチを招いた**野球教室**も開催



荘内銀行ナイターも開催！



モンテディオ山形を応援

モンテディオ山形と力を合わせ、山形県のスポーツ振興に取り組んでいます。公式スポンサーとして「**スポーツ応援定期預金** **モンテディオ山形熱血応援団 2014**」を販売したほか、「**ユニフォーム着用応援デー**」への取り組みなど、地域の皆さまと共に熱い声援を送っています。



本拠地の村山地区19ヶ店では**ユニフォーム**を着用して業務を実施！



当行が寄贈した**チームマスケット**「**モンテス**」のエアドーム

そのほかにも次代を担う青少年の健全な育成にお手伝いをしています。

「**荘内銀行頭取杯**」**山形県少年選抜 U-10 サッカー大会**



青少年の健全な育成と、将来のスターの輩出を期待しています。



荘銀カップ争奪 西村山ジュニア卓球大会

【地元産業振興・観光情報の発信】

「鶴岡るるぶ」発刊の企画・制作



観光情報誌「**鶴岡るるぶ**」は、観光振興を目的に、地域の産業界、金融機関（当行）、行政（鶴岡市）の協働により、平成26年4月に東北初の取り組みとして制作されました。当行の県内外の80店舗でお手にとってご覧いただけます。

商談会等の開催



平成25年10月に地方銀行38行とともに「**地方銀行 フードセクション2013**」を東京ビックサイトで開催し、640の企業・団体が出展し、国内最大級の「食の商談会」が行われました。



平成25年11月に当行は地方銀行9行などと「**東北・北海道6次産業化ビジネスフォーラム**」を開催し、87の企業・団体の出典があり、商談会などが行われました。

平成25年2月に地元企業の皆さまなどを対象に、成長著しいミャンマー、カンボジアを視察する「**荘内銀行ミャンマー・カンボジア視察ミッション**」を実施し、24企業・団体が参加しました。

【文化振興の取組み】

ロビー展の開催



営業店では絵などお客様の作品を展示する**ロビー展**を各店舗で実施！

地域文化情報誌の発刊協力



地域文化情報誌「**Cradle:クレードル**」の発刊を支援。県内外の当行本支店で無料配布されています。

【地域行事への参加】

県内各地の行事への参加



おいやさ祭り(鶴岡市)



山形花笠まつり(山形市)



酒田港まつり(酒田市)



米沢上杉まつり(米沢市)



みちのく阿波踊り(山形市)



天童夏まつり(天童市)

県内各地で開催される地域の「祭り」に**グループ役職員400名以上**が参加し、地域の皆さまとのコミュニケーションを深めるとともに、地域の賑わい創出にも貢献しています。

【小さな親切運動の展開】

「**小さな親切の会**」の鶴岡支部では上記クリーン作戦のほか、以下のようないろいろな取り組みを行っています。



小学生バリアフリー教室を開催し、「親切」の心を育てる活動を行っています。



小さな親切を行った方には**小さな親切実行章**を贈呈！

【交通安全への取組み】

交通安全横断旗の贈呈



昭和43年より**横断旗**を寄贈し続けており、今年で47回目、寄贈合計は50万本を超えています。



銀行名	常陽銀行
タイトル	食と旅のガイドブックやフォトコンテストを活用した観光振興への取り組み
取組み内容	【取組み経緯】 ○東日本大震災および原発事故の発生により、当行主要営業地盤では観光客の大幅な減少、農漁産物販売の落ち込みなど風評被害の影響を受けた。こうした状況を踏まえ、食関連事業者の販売促進や地元の観光振興に貢献することを目的に食と観光を融合させたガイドブックを制作し、地域内外に情報発信することとした。また、観光振興には既往の観光資源のみならず、新たな地域の魅力や隠れた観光資源を発掘し、地域内外へ情報発信していくことが重要との認識のもと、地域の新たな魅力を発見することをコンセプトとしたフォトコンテストを展開することとした。 【展開施策の概要】 ○「いばらき おいしいもの巡り—ちょっとおでかけ旅ガイド」の制作 ・「旅して、食べて、いばらきを応援」をコンセプトに、茨城県内の自慢の逸品と主要な観光スポットを紹介する「いばらき おいしいもの巡り—ちょっとおでかけ旅ガイド」を制作。冊子のほか、当行ホームページにも掲載。 ・全128社の商品を茨城県内の5エリアごとにまとめ、各エリアの観光スポットを掲載。商品の取り寄せを可能とするデータを掲載したほか、本誌掲載の観光スポットを巡りながら、掲載商品の販売店を訪れることができる地図を挿入した。また、バイヤーにも活用いただけるよう、企業向け商品も掲載した。  詳細は http://www.joyobank.co.jp/enterprise/ouendan/index.html をご覧ください。 ○常陽フォトコンテストの開催 ・新たな地域の魅力や隠れた観光資源を発掘し、地域内外へ情報発信していくことで、観光振興を後押しすることを目的としたフォトコンテストを開催。 ・より身近な観光資源を数多く発掘していただきたいとの思いから、茨城県内

を3地域（県北・県央・鹿行・県南・県西）に分け、隣県の福島・栃木県を加えて地域毎に順次開催している。

【取り組み結果】

○「いばらき おいしいもの巡り—ちょっとおでかけ旅ガイド」の制作

- ・当初5万部を発行し、営業店での顧客配布のほか、観光施設や県内公立図書館などに配備。各種マスコミに取り上げられ、お客様からも好意的な評価を頂いている。また、茨城県内の小学校の先生から、「総合学習の授業で『県内の地域の商品を知る』という題材を取り上げるにあたり、本誌を利用したい」旨の要望が寄せられるなどの反響があった。

○常陽フォトコンテストの開催

第1回茨城県北編（平成25年8月6日～9月20日）

- ・テーマ：「休日の朝」を連想させる地域の魅力
 - ・応募総数：176作品　うち15作品が入賞
 - ・入賞作品については、当行営業店のロビーを使った巡回展示、当行主催の各種イベントでの掲示などを通じて、県内の観光資源の情報発信に努めている。
- 〔最優秀作品〕「おはよう大子で～す」



第2回福島・栃木編（平成26年1月15日～3月14日）

- ・テーマ：私が感じる地域の「新たな」魅力
 - ・応募総数：445作品　うち24作品が入賞
 - ・第1回同様に巡回展示のほか、各種イベント等での展示を計画。行政等が作成する観光パンフレット等での活用など情報発信の強化に努めていく。
- 〔最優秀作品〕「天空の樂園」 「お出迎え」



詳細は <http://www.joyobank.co.jp/photocontest/index.html> をご覧下さい。

以上

銀行名	足利銀行
タイトル	金融教育への取組み事例 【1】 宇都宮大学への寄附講座 【2】 あしぎんキッズスクール「お金の体験学習」の開催 【3】 高校生金融経済クイズ選手権「エコノミクス甲子園 栃木大会」の開催
取組み内容	【1】 宇都宮大学への寄附講座 宇都宮大学との間で相互に協力して地域の発展や社会貢献および人材育成に資する取組みを目的として、「相互協力連携に関する協定書」「産学連携に関する覚書」を締結しており、その一環で実施するもの (授業内容) ・ 明治 28 年 (1895 年) の創業以来、百有余年が経つ—金融機関“ 足利銀行 ”の歴史を通して、金融論の主要なテーマである金融市場の仕組みやその機能および金融政策等について学ぶ。 ・ 本講座で金融の基礎を学び、学習・教育目標である現代社会に必要なリテラシー、幅広く深い教養と豊かな人間性を身につけるための教養教育に対応する。 ・ 全学部、全学年を対象とする教養教育科目：単位数 2 単位 (取組効果) 平成 22 年より継続して実施している。講義内容によってそれぞれ担当部署の役職員が講師を務めており、講義とともに現役の銀行員の話が聞ける良い機会であると好評を得ている。 【2】 あしぎんキッズスクール「お金の体験学習」の開催 地域の子どもたちに対して、当行に親しんでもらうとともに、子どもたちが将来の生活において、正しい金銭感覚と金融経済に興味を持つきっかけとなるよう、小学校 4～6 年生の児童とその保護者を対象に実施するもの (カリキュラム) ・ お金の大切さについて「ゲームを通じてお金の大切さやお金を上手に使うヒントを得よう」 ・ お金に関するクイズ「お金の役割や歴史を学ぼう」 ・ 銀行の仕事と役割について「銀行の内側を見学してみよう」 (取組効果) 児童には、「おこづかいゲーム」や「紙幣の重さ体験」などから、おこづかい帳のつけ方や銀行業務について楽しく学んでもらい、参加保護者には、お子さまへの金銭教育の指導を講義するなど、高評価をいただいている。 【3】 高校生金融経済クイズ選手権「エコノミクス甲子園 栃木大会」の開催 高校生が楽しみながら金融経済に触れ金融知力を身につける機会提供としての、筆記、早押し等で競う合うクイズ大会。25 年度より栃木大会を初めて実施。地元放送局とちぎテレビにおいて、栃木大会の様子が 1 時間の番組として放映された。(参加者：9 校 18 チーム 36 名)

銀行名	群馬銀行
タイトル	社会貢献活動の実施
取組内容	【動機（経緯）】 「よき企業人であるためによき市民であること、これが私たちの活動の基本です」という企業理念に基づき、地域の一市民として、地域社会の役割を果たすために社会貢献活動に積極的に取り組んでいる。 【取組み内容】 1. 金融経済教育への支援 （1）「エコノミクス甲子園群馬大会」の主催 ア. 平成 23 年より、高校生を対象とした金融経済教育の場としてクイズ形式で金融の知識を学ぶ機会を提供。 イ. 平成 25 年の参加状況 11 校 21 チーム（42 名） （2）高校生の本店見学受け入れ ア. 各高校で実施している「キャリア教育」の一環で実施している職場見学の場として本店の見学を受け入れ（平成 25 年度 4 校で実施）。 イ. 本店営業部で窓口業務、出納業務などの見学、現金センター見学、銀行業務や社会における金融の役割などのレクチャー実施。 （3）小中学生の職場見学受け入れ 地元の小中学生の職場見学、職場体験の場として支店見学を受け入れ。 2. スポーツ振興への支援 （1）バレー部によるバレーボール教室の開催。 （2）「ぐんぎん杯ママさんバレーボール教室」の開催（平成 25 年～）。 （3）群馬県民マラソンへの協賛と行員のボランティア参加。 3. 芸術・文化振興への支援 （1）群馬交響楽団の賛助会員になるとともに、定期演奏会への協賛を実施。 （2）群馬の風土を記録した「新春特別番組」を地元テレビ局で制作。番組の DVD を県内の学校に寄贈。 （3）「富岡製糸場・絹産業遺産群保護活動応援ファンド 愛称：群馬の絹遺産」を取扱い、信託報酬の一部を「富岡製糸場と絹産業遺産群」の保護活動に寄付（平成 26 年 6 月 23 日取扱開始）。 4. 地域活動への参加 町内会活動、清掃活動、商工会議所活動、地域のお祭りへの参加。 【取組みの効果】 1. 社会貢献活動への取組みを通じて、地域の一市民として地域社会における役割を果たしていく。 2. 金融経済教育への支援では、「エコノミクス甲子園」や本店見学に参加した生徒より好評を得ており、金融経済教育の場を提供する目的が達成できた。

銀行名	群馬銀行
タイトル	環境問題への取組み
取組み内容	【動機（経緯）】 平成 21 年 5 月に「群馬銀行環境方針」を制定し、環境問題への積極的な取組みを行っている。 【取組み内容】 1. 当行の取組み （1）商品・サービスを通じた取組み ア. 低公害車購入者のマイカーローン金利を優遇。 省エネ住宅設備向け専用ローン「エコ計画」の金利を優遇。 イ. 「自然環境保護ファンド 愛称：尾瀬紀行」を取扱い、信託報酬の一部を尾瀬保護財団へ寄付。 ウ. 環境配慮型私募債を取扱い、環境に配慮する企業の資金調達費用を軽減。 （2）その他の取組み ア. 一部店舗に太陽光発電設備を導入。また、本部等に省エネタイプの空調、照明機器を積極的に導入。 イ. 「クールビズ運動」の実施 ウ. 群馬県と「県有林整備パートナー事業実施協定を締結。赤城山内の県有林 3.69 h a を「ぐんぎんの森」と命名し平成 24 年から整備を進める。毎年、新入行員研修で間伐・枝打ち作業を行い、行員の環境意識向上に役立てている。 2. 公益財団法人群馬銀行環境財団の取組み 平成 7 年に企業理念である「地域社会の発展を常に考えて行動すること」の実践活動の一環として公益財団法人群馬銀行環境財団を設立。快適で健全な環境の整備・保全を目指して助成活動や啓発活動を実施。 （1）「環境財団賞」や「教育賞」を設け、優れた環境活動を実践している団体等を表彰し、助成金を交付する。 （2）「環境探検隊（中学生対象）」や「エコキッズキャンプ（小学生対象）」を実施。イベントを通じて環境問題について体験学習を行う啓発活動を実践している。 （3）群馬県の実施する「環境にやさしい買物スタイル普及活動」に協賛し、特製マイバッグを作成し無料配布を行う。 【取組みの効果】 1. 地域社会における環境の取組みに対する支援や当行としての主体的な環境問題への取組みを通じて、銀行としての社会的責任を果たしていく。 2. こうした取組みを通じ、行員の環境問題に対する意識の向上を図っている。

銀行名	武蔵野銀行
タイトル	「目指せ日本一の銀行員 ～武蔵野銀行のお仕事体験～」
取組み内容	(開催理由) CSRへの取組みの一環として、未来を担う地域の子供たちにお金の役割や銀行業務についての学ぶ機会を提供している。 なお、本カリキュラムは、埼玉県が「青少年健全育成施策」の一つとして行っている「青少年夢のかけはし事業」への協力カリキュラムであり、平成22年度より実施しており今年度で5回目 (カリキュラムについて) (1) 内容 ・銀行の役割やお金の大切さに関するガイダンス ・クイズ、紙幣勘定や数字の書き方の練習 ・普段見ることの出来ないATMの裏側や貸金庫の見学など (2) 期間 ・夏休み期間の半日 (3) 会場 ・営業店11か店 (4) 対象 ・小学校4～6年生 約80名 (取組み効果) (1) 実際の職場で保護者と一緒に銀行業務について学んでいただく機会の提供により、参加者からの評価は高い。 (2) 子供の目線に立って「分かりやすく教える」という体験は、若手行員などに良い刺激を与えている。 (参考) この他、営業店では、「職場見学会」や「職場体験学習」の開催やNPOが主催するイベントでの金融教育ボランティアを行っている。

銀行名	横浜銀行		
タイトル	経済・金融教育への取り組み		
取組み内容	【動機（経緯）】 当行では、地域社会への協力活動として、「こども」と「環境」をテーマに取り組んでいる。本取り組みは、地域の将来を担う若い世代に焦点を当て、経済の仕組みや銀行の役割などの金融知識を深める機会を提供することで、地域のさらなる活性化と発展をめざすもの。		
	【取り組み内容】		
	項 目	概 要	対 象
	職場体験学習等	各学校の要請に基づき、営業店において銀行業務を学ぶプログラムを実施。	小学生～大学生
	子どもアドベンチャー	横浜市教育委員会が夏休みに実施する体験プログラムに毎年参加。本店営業部の見学やお金の大切さを学ぶワークショップを実施。平成19年より継続。	小学生
	全国高校生金融経済クイズ選手権（エコノミクス甲子園）	クイズを通して金融経済を学ぶ「エコノミクス甲子園」の神奈川大会を主催。平成20年より継続。	神奈川県内の高校生
	寄附講座	地元大学との産学連携の取り組みとして、横浜銀行グループ社員らが講師となり、金融システムや金融政策、銀行経営などをテーマに特別講義を実施。	大学生
	インターンシップ	学生の職業意識の醸成に協力するため、神奈川県内の大学生を中心とした5日間のプログラムを実施。	大学生
	神奈川産学チャレンジプログラム	神奈川経済同友会が主催する、学生の人材育成を目的とした課題解決型研究コンペへの協力。	大学生
	神奈川県版あしたね	職業学習用ウェブサイトの企画・運営に協力。お取引先などを紹介し、将来の生き方や働き方を考える機会を提供。	小学生～高校生
おこづかいちょう	金融教育を目的とした当行オリジナルのノベルティ。口座開設者やCSRイベント参加者に配付。	18歳未満	
【取り組み効果】 参加者等は以下のとおりであり、地域において定着してきている。			
項 目	H25 年度参加人数等		
職場体験学習等	32 校 308 人		
子どもアドベンチャー	40 人		
エコノミクス甲子園神奈川大会	8 校 34 人		
寄附講座	2 大学		
インターンシップ	32 人		

銀行名	横浜銀行		
タイトル	スポーツや文化・芸術分野におけるこどもの育成支援		
取組み内容	【動機（経緯）】 当行では、地域社会への協力活動として、「こども」と「環境」をテーマに取り組んでいる。本取り組みは、スポーツや文化・芸術分野におけるこどもの育成支援を通じて、地域のさらなる活性化と発展をめざすもの。		
	【取り組み内容】		
	項 目	概 要	対 象
	横浜銀行カップ 神奈川県学童軟式野球選手権大会	毎年夏に、神奈川県内の各地区大会の優勝・準優勝チームなど42チームが参加する軟式野球大会に冠スポンサーとして応援。平成20年より継続。	小学生
	はまぎんサッカー教室	プロの選手らを講師に迎えて、実践的な指導を受けられるサッカー教室。平成19年より継続。	幼稚園～小学生
	はまぎん こども宇宙科学館	平成20年よりネーミングライツを取得しているほか、宇宙や科学をテーマに、著名人による講演会や工作教室などの冠イベントを年2回開催。平成25年度は開館30周年を記念して、「スペース・シミュレータ」を寄贈。	小学生～中学生
	横浜みなとみらいホールとの協働事業	年間を通して、こども向け体験型音楽プログラム「横浜銀行 Presents こども未来ミュージック・プログラム」を実施。平成20年度より継続。	未就学児～高校生
	神奈川フィルハーモニー管弦楽団との連携事業	神奈川県唯一のプロオーケストラである神奈川フィルと連携して、未就学児を対象としたオーケストラコンサートや、小学校への出張講演会を開催。	未就学児～小学生
	学習用副読本	横浜市立の小中学校で使用する横浜の歴史を学ぶ副読本（合計約6万部）および川崎市立中学校で使用する川崎の科学や技術を学ぶ副読本（約9千部）の発行に協力。	小学生～中学生
	【取り組み効果】 それぞれ継続して取り組んでいる結果、はまぎん こども宇宙科学館におけるイベントでは1回につき1,000人近くの応募があるなど、地域において定着している。		

銀行名	横浜銀行																								
タイトル	環境保全活動																								
取組み内容	【動機（経緯）】 当行では、地域社会への協力活動として、「こども」と「環境」をテーマに取り組んでいる。本件は、次世代を担うこども達に美しい自然を引き継ぐため、地域の環境保全に取り組むもの。 【取組み内容】 ■ 商品・サービスの提供による環境保全活動 （１）＜はまぎん＞ソーラーローン 太陽光発電による安全・安心な低炭素社会の実現などをめざし、住宅へのソーラーパネルの普及を支援。 （２）＜はまぎん＞環境格付融資制度 温暖化対策にかかる設備の導入に際し、環境経営の取り組み状況に応じて、金利の差し引きが受けられるほか、環境省の利子補給事業を利用する場合は、国からの利子補給金を受け取ることができる融資制度。 （３）＜はまぎん＞マイダイレクトにおける電子交付サービス 紙資源の削減のため、インターネットバンキングにおいて、封書やはがきで郵送している投資信託関連の報告書類などを平成２３年度より電子ファイルで交付。 ■ 環境に配慮した業務態勢の構築・見直し （１）チャレンジ２５キャンペーンへの参加 地球温暖化防止の国民運動に参加。節電や節水、クールビズ、ウォームビズなどを実践。照明器具では高効率反射板の導入やＬＥＤ照明への更新、空調機については節電効果の高い新型空調機への更新を実施。また、電力使用状況をモニタリングするオンデマンド監視装置を導入し、ピーク電力の抑制のため随時電力使用量を確認。 （２）電気自動車の活用 神奈川県電気自動車普及活動に賛同し、平成２３年度より本店の営業用車両として電気自動車を活用。二酸化炭素の排出削減に努めるとともに、本店内に設置した充電設備をお客さまに無料開放することで、県内における充電ネットワークの構築に協力。 ■ 都市緑化・美化活動 （１）自治体等と連携した都市緑化活動 横浜市等と協力し、環境浄化植物などを定期的に植栽。 （２）行員による美化活動 営業店などが主体となって地域の海岸や河川の清掃活動などへ参加し、行員がボランティアとして活動。 【取組み効果】 環境格付融資制度については、平成２５年に第１号案件を実行。省エネルギー・節電などの効果は以下のとおり。 <table><tr><th>項 目</th><th>単 位</th><th>H22 年度</th><th>H23 年度</th><th>H24 年度</th><th>H25 年度</th></tr><tr><td>電力使用量</td><td>千 kwh</td><td>24,755</td><td>24,755</td><td>20,802</td><td>20,444</td></tr><tr><td>ガソリン使用量</td><td>kl</td><td>67.4</td><td>66.5</td><td>58.7</td><td>63.6</td></tr><tr><td>紙使用量</td><td>t</td><td>430.1</td><td>152.8</td><td>150.7</td><td>136.0</td></tr></table> ※当行グループ主要ビルにおける数値。なお、ガソリン使用量はレギュラー・ハイオクの使用量。	項 目	単 位	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度	電力使用量	千 kwh	24,755	24,755	20,802	20,444	ガソリン使用量	kl	67.4	66.5	58.7	63.6	紙使用量	t	430.1	152.8	150.7	136.0
項 目	単 位	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度																				
電力使用量	千 kwh	24,755	24,755	20,802	20,444																				
ガソリン使用量	kl	67.4	66.5	58.7	63.6																				
紙使用量	t	430.1	152.8	150.7	136.0																				

銀行名	第四銀行
タイトル	「だいしアカデミー」の開催
取組み内容	【経緯】 ・平成25年度に当行創立140周年事業として、今後の新潟を担う子どもたちの育成支援のため、各分野でプロとして活躍する人々を講師として招き授業を行う「だいしアカデミー」を開始。 ・以前より社会貢献活動として行ってきた金融教育活動も「だいしアカデミー」に統合した。 【取り組み内容】 ・当行行員が講師を務める「金融」をはじめ、文化芸術やスポーツなどに親しむことができる体験型の授業を数多く実施（科学・美術・音楽・ダンス・野球・サッカーなど）。 －「金融」について－ ・本店営業部、高田営業部、長岡営業部にて「夏休み！親子銀行探検隊」として県内の小学生とその保護者を招き、銀行内部を探検するなどして金融教育を行った。 －本店内の「だいし金融資料室」見学 －営業部内見学（窓口、金庫など） －ビデオ視聴（金融に関するもの） －お金に関するクイズ、銀行の役割などについての学習 ・上記とは別に、主に中学生を対象とした職場体験学習や出張授業など金融教育に各営業店で積極的に取り組んでいる。 ※平成25年度実績 職場体験学習及び出張授業…39校、926人を対象に授業を実施 夏休み！親子銀行探検隊……83名が参加（個人申込み方式） 【取り組みの効果】 ・「だいしアカデミー」全体では2,000名を超える子どもたちから参加をいただき、参加者からは「普段はできない体験ができた」「夏休みの自由研究のヒントになった」など、高い評価をいただいた。 －「金融」について－ ・「正しいお金の使い方を考えるよい機会になった」「銀行員でないと入れない場所を見ることができてよかった」などの感想をいただき、金融についての理解を深め、銀行を身近に感じていただくきっかけとすることができた。 ・講師を務めた行員自身も、「平易な言葉で金融を説明することの難しさを体験すること」などを通じて成長がみられた。

銀行名	北越銀行
タイトル	トキ保護活動への取組み
取組み内容	【 動 機 】 ・ 当行では、環境問題に対する取組みの一環として、新潟県の県鳥で国際保護鳥でもある「トキ」の野生復帰や生息環境の復元にむけた各種事業を支援している。 【 取組み内容 】 ・ 当行では昭和 43 年から毎年、新潟県が運営する「トキ愛護募金」に当行行員の募金とあわせて寄付をおこなっている。 (※ 平成 25 年度寄付金実績：600 千円) ・ また、投資信託「トキ応援ファンド」と「トキ子育て応援ファンド」を販売し、これら 2 商品から得られる信託報酬の一部を「新潟県トキ保護募金」に寄付している。(※ 平成 25 年度寄付金実績：3,148 千円) ・ 新潟県佐渡市でおこなわれている「佐渡トキ保護ボランティア」に当行行員が参加し、トキの餌場となる水田の整備等をおこなうことで、トキの生育環境復帰にむけた取組みをおこなっている。 【 取組みの効果 】 ・ トキ保護活動への寄付金については、新潟県を通じてトキの野生復帰事業など、トキの保護育成に関する活動全般に有効活用されている。 ・ 新潟県の県鳥であるトキの保護育成については、県民の注目度も高く、佐渡市をはじめとした観光の振興にもつながっており、当行に長年にわたるトキ支援活動については、新潟県からも一定の評価を得ている。

銀行名	山梨中央銀行
タイトル	エコノミクス甲子園山梨大会の開催
取組み内容	【動機（経緯）】 ・ 特定非営利活動法人金融知力普及協会が平成 19 年から開催している全国高校生金融経済クイズ選手権「エコノミクス甲子園」の趣旨に賛同し、地方大会（山梨大会）を平成 23 年から主催している。 高校生に、世の中がどのような金融経済の仕組みで動いているのかを理解してもらうとともに、「自分のライフデザイン」や「自分とお金の関わり方」について、クイズを通して考えるきっかけとしてもらうことを目指している。 【取組み内容】 ・ 内容 — 筆記クイズ（4 択 50 問のマークシート形式で出題） — 早押しクイズ — 決勝戦「賞金山分けクイズ」 ・ 平成 25 年度実績 — 参加校数 9 校 — 参加人数 52 名(26 チーム) 【取組みの成果】 ・ 高校生に楽しみながら金融・経済を学べる機会を提供できた。また、大会参加をきっかけとして金融・経済に対する興味を喚起できた。 ・ 開催した 3 回とも参加者は 50 名を超えており、金融経済教育の普及が進んでいる。 以 上

銀行名	山梨中央銀行
タイトル	小学校低学年（１～２年生）対象の金銭教育授業の実施
取組内容	【動機（経緯）】 ・ よりよい社会づくりのために、金銭教育を通じて、「将来を担う子どもたちのお金や物を大切にする心の育成」、「お金や労働の価値を学ぶことによる感謝や自立の心の育成」などを目指している。 【取組み内容】 ・ 内容 小学校低学年向けテキスト「おかねのたび」による金銭教育 — 紙芝居「おかねのたび」の読み聞かせ — 黒板に登場人物のパネルを掲出して、お金の流れの説明 — まとめ A. お金の役割、B. お金やものの大切さ、C. 保護者への感謝について ※ 授業終了後、児童にテキスト「おかねのたび」を各１冊贈呈。 ・ 平成 25 年度実績 — 実施回数 7 回 — 参加人数 138 名 【取組みの成果】 ・ 平成 23 年の取組開始以来、学校側の理解のもと道徳などの授業の一環として毎年 6～7 回実施している。また、平成 25 年度は、初めて図書館での授業も実施、児童だけでなく保護者も参加していただける授業を行った。 受講された児童・保護者から、「とても楽しくお金の勉強ができた」「お金や物を大切に使います」などの好意的な感想が寄せられており、金銭教育の一助となっている。 以 上

銀行名	山梨中央銀行
タイトル	職場体験学習の受入れ
取組み内容	【動機（経緯）】 ・各学校が「道德」や「総合学習」などの授業の一環として実施している職場体験学習に協力している。 【取組み内容】 ・ 内容 — 銀行業務の説明、当行の概況 — 支店（営業室など）見学 — 応対・電話マナー、札勘・加算機体験 — ロビーでのお客様対応（あいさつ、送迎など） — 質疑応答など ・ 平成 25 年度実績 — 実施回数 21 回 — 参加人数 197 名 【取組みの成果】 ・毎年多くの学校からの要請により、小学校低学年の職場見学から大学生への講義まで、幅広く受け入れている。「銀行の仕事を知ることができた」「自分の生き方や将来の進路を考える機会になった」などの好意的な感想をいただいております、有意義なキャリア教育の機会として、各学校からの要請も年々増加しています。 以 上

銀行名	山梨中央銀行
タイトル	森林整備事業（里地里山保全事業）の実施
取組み内容	【動機（経緯）】 - 平成 22 年 9 月に、環境保全活動に対する基本的な考え方を明確化するとともに、役職員一人ひとりが自らの役割を自覚するため「環境方針」を制定した。その環境方針のもと、平成 23 年 8 月から持続可能な社会の形成に向けた環境保全活動として実施している。 【取組み内容】 - 内容 - 耕作放棄地での野菜栽培等 耕作放棄地（653 m²）において、スイートコーンやジャガイモ等の栽培。 - 森林の整備 荒廃した森林（4,759 m²）の間伐、山桜等 600 本の植樹、下草刈り。 - 平成 25 年度実績 - 実施回数 5 回 - 参加人数 416 名（平成 23 年 8 月以降延べ 1,109 名） 【取組みの成果】 - 毎回約 100 名が参加しており、役職員の環境問題への意識を高めるきっかけとなっている。また、本事業は地元の農業関係者の協力のもと実施しており、地域の皆さまとの親交も図られている。 以 上

銀行名	北陸銀行
タイトル	地元大学との包括連携協定に基づき共同テキストを出版
取組み内容	1. 当行は、平成 17 年 3 月に国立大学法人富山大学（学長 遠藤俊郎）と「包括連携協定に関する覚書」を締結している。その具体的連携事業として、「事例とドリルで学ぶ企業総合分析」を出版した（同大学との共著は 3 冊目）。 2. 富山大学経済学部においては、平成 25 年度後期から当行による寄付講座「財務分析論」（担当：鈴木基史教授、森口毅彦教授）が開講されており、全 15 コマの講義において当行より役職員を講師として派遣している。本書はこの講義の内容を収録し、本講座の講義用テキストとして位置付けているものであり、全 8 章にわたり当行役職員が執筆に携わった。 3. 本書においては、事例とドリルを多く用いて企業分析に関する目利き力・コンサルティング力向上に資する内容となっており、地域の金融リテラシー向上に資するものである。 〔写真 1〕 共同出版したテキスト  〔写真 2〕 富山大学との共同出版記者会見の様子 

銀行名	大垣共立銀行
タイトル	「OKBストリート」の誕生
取組み内容	【動機（経緯）】 ・当行は、地域金融機関として、地元と一体となった商店街の活性化への取組みをすすめている。 ・こうしたなかで、地元の大垣市内にある大垣郭町商店街振興組合に加え、総務省（※）、大垣市、大垣まちづくり株式会社等と広く連携を行うことにより、当行本店とＪＲ大垣駅を結ぶ通りに位置する大垣郭町商店街のアーケードに「OKBストリート」の愛称を命名する等、商店街活性化に向けた取組みを展開。 ・これにより、地域金融機関として、大垣らしい魅力ある町づくりに継続的に貢献。 （※）総務省・耐災害ＩＣＴ研究開発の成果活用 …情報通信ネットワークの耐災害性強化のための研究開発（大規模災害においても通信を確保する耐災害ネットワーク管理制御技術の研究開発） 【取組内容】 ・愛称の命名 大垣郭町商店街のアーケードに「OKBストリート」の愛称を命名。 ・ストリートサイン・ストリートフラッグの設置 OKBストリートを視覚に訴え商店街の認知度アップを図るべく、アーケードにストリートサインとストリートフラッグを設置。 ・ベンチの設置 心地よく滞在できる商店街づくりの一環として、デザイン性に優れたベンチを設置。 ・防災・防犯灯の設置 安心安全な商店街の一助となるべく、ＬＥＤライトや防犯カメラ等を設置。 ・OKBstreet ジャーナルの発刊 大垣郭町商店街や各商店の魅力を地域住民へ発信することを目的に情報誌「OKBstreet ジャーナル」を年間３回発行。 【取組みにおける効果】 ・ストリートサイン・ストリートフラッグの設置による商店街の認知度アップ。 ・まちなみとの調和に配慮したベンチの設置によりくつろぎ空間をつくり、また、防災・防犯灯の設置により安心安全なまちづくりに貢献。 ・OKBstreet ジャーナルの発刊による情報発信等を通じて、町の賑わいを創出。

銀行名	スルガ銀行
タイトル	「SURUGA ECO ACTION」の取り組み
取り組み内容	「SURUGA ECO ACTION」に基づく環境保全活動等の実施 (1) 環境関連金融商品の取り扱い ① webブックフリー契約の推進 ② インターネットバンキング利用件数の向上 (2) 社会貢献活動の実施 ① 「富士山ごみ減量大作戦」へ参加し、清掃活動を実施等 ② 18時以降のライトダウン活動の実施（平成25年度5回実施） (3) エコオフィス化の推進 環境配慮店舗の設置（沼津岡宮支店、湯河原支店） ・店内照明はLED照明 ・店舗屋上に太陽光パネルを設置 (4) 環境に関する啓蒙活動 ① 社内報へ環境活動に関する記事を掲載 ② 環境問題に関する勉強会の実施 「SURUGA ECO ACTION」は、環境活動に対する当社の宣言であり、 環境活動を4つの分野に分け、それぞれに取り組んでおります。 各分野に積極的に取り組むことで、社会の一員としての当社の役割を果たしてまいります。 

銀行名	清水銀行
タイトル	静岡県立大学経営情報学部 経営情報特別講義「地域金融論」開催
取組み内容	【動機（経緯）】 - 金融・経済に関する実践的な知識の習得を目的とした講義を提供することにより、地域の将来を担う人材を育成し、豊かな地域社会の発展に貢献する。 - 大学への講義提供を通じ金融経済教育へ関与することで、学生が金融機関の業務について知識を深め、職業について考える機会となり、新たな職業観の形成や就業意識を高めることに貢献する。 【取組み内容】 - 本講義は金融経済教育の取組みの一環として、平成 17 年より毎年開催。 - 平成 25 年度は平成 25 年 10 月から平成 26 年 2 月まで全 15 回の講義を開催し、72 名の学生が受講。カリキュラムは下記の通り。 － 経済環境について － 金融と地方銀行の役割について － 決算書の見方、融資推進業務、企業再生支援等について － CS・マナーについて － 銀行の事務について － コンプライアンスについて － リスクマネジメントについて 等 【取組みの効果】 - 本講義を受講した学生の多くから「講義内容に興味・関心が持てた、さらに勉強したくなった」との評価を得ている。 - 銀行の具体的な企業活動や業務内容を伝えることで、社会人として働くことへのイメージ作りや職業について考える機会を与えていることが評価され、他の講義と比べても人気ある講義のひとつとなっている。

銀行名	三重銀行
タイトル	「夏休み！銀行ワクドキ体験隊」の開催
取組み内容	【動機（経緯）】 ・当行は、「次世代育成支援」を社会貢献活動の柱としており、地域の小学生に銀行業務や金融について学んでいただく機会を提供するために、平成19年より本イベントを開始した。 【取組み内容】 ・小学校高学年と児童と保護者を参加対象とし、 （1）勉強しよう！…お金や銀行のはたらきについての講義、クイズ （2）体験しよう！…「お札を数えよう」（札勘）、「1億円を持ってみよう」 （3）探検しよう！…銀行内の見学（ロビー、金庫室など） （4）頭取にきいてみよう！ の4つのプログラムに沿って、実施している。（全プログラムで3時間程度） 【効 果】 ・事後のアンケート等においても、参加者の方から好評いただいている様子。 ・マスコミ等にも取り上げられ、当行のイメージアップにおいても有意義なものになっており、「親子で楽しめるイベント」として浸透してきている。

各 位

2013年6月28日
株式会社 三 重 銀 行

「夏休み！銀行ワクドキ体験隊」の開催について ～小学校5～6年生の児童と保護者の方の参加を募集～

株式会社三重銀行（本店：四日市市 頭取：種橋 潤治）は、CSR活動の一環として、次世代を担う子どもたちにお金の役割や経済の仕組み、銀行の仕事などを学んでいただく機会を提供するため「夏休み！銀行ワクドキ体験隊」（第7回）を開催します。

「夏休み！銀行ワクドキ体験隊」は、銀行内の見学や業務の体験などを通して、金融に対する理解を深めていただくことを目指しています。

参加者は小学校5～6年生の児童とその保護者とし、新聞、ホームページ等を通じて募集します。

記

実 施 日 ①2013年7月26日（金） ②2013年7月30日（火） 各日14:00～17:00

場 所 三重銀行本店（四日市市西新地7-8 近鉄四日市駅より徒歩5分）

主な内容（予定）(1)勉強しよう！… お金や銀行のはたらきについての講義、クイズ
(2)体験しよう！… 「お札を数えよう」「1億円を持ってみよう」
(3)探検しよう！… 銀行内の見学（ロビー、金庫室など）
(4)頭取にきいてみよう！

募集対象 小学校5～6年生の児童とその保護者

募集人数 40組（80名） ①、②各日20組（40名）（予定）

申込方法 往復はがきによる申込み（締切 2013年7月9日（火）消印有効）

<往復はがき記入要領>

☐ 〒510-8707 ☐ 往信 日本郵便株式会社 四日市郵便局 私書箱17号 三重銀行ワクドキ 係	何も記入しないで ください。	☐ 返信 応募者の郵便番号 住所・氏名を ご記入ください	ワクドキ体験隊参加希望 1.希望日(①7/26②7/30 または①②のどちらでもよい) 2.お子さま氏名(フリガナ) 3.学校名・学年 4.保護者氏名、続柄 5.郵便番号 6.住所 7.電話番号 8.お金や銀行について 知りたいことなど
--	-------------------	--	---

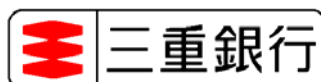
応募方法の詳細は当行ホームページ(<http://www.miebank.co.jp>)にも掲載しています。

参加者ご本人以外のお子さま（きょうだいなど）のご同伴は、ご遠慮ください。

応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。

以 上

【本件に関するお問い合わせ先】 総合企画部 山下 TEL059-354-7172



(株)三重銀行 総合企画部 広報室
四日市市西新地7-8 TEL059-354-7172

銀行名	滋賀銀行				
タイトル	GREEN POWERプロジェクト（※）「まちエネ大学 滋賀スクール」へ協賛				
取組み内容	経済産業省資源エネルギー庁等が実施する地域貢献型の再生可能エネルギー事業者育成講座「まちエネ大学 滋賀スクール」に協賛。 「まちエネ大学」は、11月から東京、札幌、大津、和歌山、松江の全国5ヵ所で開講。このうち「まちエネ大学 滋賀スクール」は、戸建住宅や工場、各種施設における中小規模の太陽光発電の導入可能性が大きい滋賀県において、滋賀県および県内の環境NPO等と連携しながら、地域貢献志向を持った再生可能エネルギー関連事業者の育成を目指すもの。 本講座では、事業構築の考え方、まちづくりや法的リスクに詳しい専門家に講演いただき、全4講座の最終回には、これまでの講座の成果を披露する事業計画発表会を行った。なお、第1回講座開講に先立ち、受講説明会を兼ねたプレイベントを11月に開催。 （※）GREEN POWERプロジェクト 資源エネルギー庁が官民連携で進める再エネ普及啓発事業。 <table border="1"> <tr> <td>1. 名称</td><td>「まちエネ大学 滋賀スクール」</td></tr> <tr> <td>2. 日時・会場 プログラム</td><td> ●プレイベント 平成25年11月6日(水) 13:30～16:30 ピアザ淡海 大会議室 再生可能エネルギーに関する映画上映会・ワークショップ ゲスト講師：村上 敬亮 氏（資源エネルギー庁新エネルギー対策課長） 勝屋 久 氏（プロフェッショナル・コネクター） ファシリテーター：吉田 典正 氏（ドリームコーチ・ドットコム社長） ●第1回講座 平成25年11月18日(月) 14:00～16:30 ピアザ淡海 「再エネビジネスを通じて持続可能な地域をつくる、再エネビジネスのパイオニアに出会う！」 ゲスト講師：村上 敬亮 氏（資源エネルギー庁新エネルギー対策課長） 原 亮弘 氏（おひさま進歩エネルギー株式会社 代表取締役） ●第2回講座 平成25年12月16日(月) 14:00～16:30 滋賀銀行 本店 「各地の再エネビジネス成功事例から学ぶ」 </td></tr> </table>	1. 名称	「まちエネ大学 滋賀スクール」	2. 日時・会場 プログラム	●プレイベント 平成25年11月6日(水) 13:30～16:30 ピアザ淡海 大会議室 再生可能エネルギーに関する映画上映会・ワークショップ ゲスト講師：村上 敬亮 氏（資源エネルギー庁新エネルギー対策課長） 勝屋 久 氏（プロフェッショナル・コネクター） ファシリテーター：吉田 典正 氏（ドリームコーチ・ドットコム社長） ●第1回講座 平成25年11月18日(月) 14:00～16:30 ピアザ淡海 「再エネビジネスを通じて持続可能な地域をつくる、再エネビジネスのパイオニアに出会う！」 ゲスト講師：村上 敬亮 氏（資源エネルギー庁新エネルギー対策課長） 原 亮弘 氏（おひさま進歩エネルギー株式会社 代表取締役） ●第2回講座 平成25年12月16日(月) 14:00～16:30 滋賀銀行 本店 「各地の再エネビジネス成功事例から学ぶ」
1. 名称	「まちエネ大学 滋賀スクール」				
2. 日時・会場 プログラム	●プレイベント 平成25年11月6日(水) 13:30～16:30 ピアザ淡海 大会議室 再生可能エネルギーに関する映画上映会・ワークショップ ゲスト講師：村上 敬亮 氏（資源エネルギー庁新エネルギー対策課長） 勝屋 久 氏（プロフェッショナル・コネクター） ファシリテーター：吉田 典正 氏（ドリームコーチ・ドットコム社長） ●第1回講座 平成25年11月18日(月) 14:00～16:30 ピアザ淡海 「再エネビジネスを通じて持続可能な地域をつくる、再エネビジネスのパイオニアに出会う！」 ゲスト講師：村上 敬亮 氏（資源エネルギー庁新エネルギー対策課長） 原 亮弘 氏（おひさま進歩エネルギー株式会社 代表取締役） ●第2回講座 平成25年12月16日(月) 14:00～16:30 滋賀銀行 本店 「各地の再エネビジネス成功事例から学ぶ」				

	ゲスト講師：大和田 順子 氏 (一般社団法人 ロハス・ビジネス・アライアンス 共同代表) ●第3回講座 平成26年 1月24日(金) 14:00～16:30 滋賀銀行 本店 「リスクを踏まえて、始めよう！」 ゲスト講師：水上 貴夫 氏(弁護士) (NPO 再エネ事業を支援する法律実務の会 代表) ●第4回講座 平成26年 2月27日(木) 13:30～16:30 ピアザ淡海 「卒業」事業計画／再エネビジネスプラン発表会 ゲストファシリテーター：小泉 博之 氏(公認会計士) 3. 主 催 まちエネ大学実行委員会 (共催) 経済産業省 資源エネルギー庁 (後援) 滋賀県 (協賛) 株式会社滋賀銀行 (企画) Green TV Japan
--	--

銀行名	滋賀銀行
タイトル	CSRの取り組み
取り組み内容	・当行の行是「自分にきびしく 人には親切 社会につくす」の精神を原点としたCSR 憲章（経営理念）に「地域社会」「役職員」「地球環境」との「共存共栄」を掲げ、「環境」「福祉」「文化」を3本柱としたCSR活動に取り組んでいます。 「エコ・ファースト企業」 経営に環境を取り込んだ「環境経営」のもと、金融商品・サービスの提供など環境保全を金融面から促進する「環境金融」に取り組んでいます。これまでの環境保全活動が広く認められ、平成20年に金融業界初の「エコ・ファースト企業」として、環境省より認定を受けました。  環境配慮型店舗「唐崎支店」新築オープン（平成26年3月10日） 町並みに配慮したデザインとし、営業スペースを最大限に確保するなど店舗機能の充実を図りました。太陽光発電やソーラー街路灯等を採用し、「グリーンバンクしがぎん」として環境に配慮しています。当行は5次長計に「お客さまの利便性が向上するチャネル機能の見直し」を掲げ、店舗機能の充実に取り組んでいます。  高等学校「現代倫理」の教科書にCSR活動事例として掲載 株式会社清水書院が平成26年2月に発行した高等学校「現代倫理」の教科書に「企業による社会貢献活動」の事例として、当行の環境保全活動や「環境金融」への取り組みが掲載されました。  企業による社会貢献活動（意匠院の沿岸で環境保全活動を行う銀行員） この銀行では、役職員が地域の環境保全活動に取り組んでいる。 また、銀行の本拠である彦根市を通じて、環境保全事業への職員や、定期預金に学校の環境学習への支援を積み重ねた商品の開発などを行っている。これらの社会貢献活動は、近江商人の精神を受け継ぐとするものであるという。 近江商人の精神とは「売り手よし、買い手よし、世間よし」の「三方よし」といわれるもので、販売とは売り手の利益だけではなく買い手の利益にもなり、さらに社会の利益にもなるべきであるという理念である。（日本の商業道徳について→p.97石田尚希の項参照） 第15回グリーン購入大賞で「大賞」受賞 各平成25年12月、当行の「幅広い継続的な環境負荷低減の取り組み」が評価され、「大賞」を受賞しました。（主催：グリーン購入ネットワーク）  「第17回環境コミュニケーション大賞」でダブル受賞 環境報告書部門 環境報告大賞（環境大臣賞） テレビ環境CM部門 優秀賞 平成26年3月、当行発刊の「CSRレポート2013歩みを、共に。」とテレビCM「ニゴロブナ・ワタカ放流」篇が優れた環境コミュニケーションツールとして高い評価を受け、栄えあるダブル受賞となりました。（主催：環境省、一般財団法人地球・人間環境フォーラム） 

銀行名	滋賀銀行
タイトル	いきものがたりプロジェクト
取組み内容	「CSR のしがぎん」というブランド戦略のもと、多岐にわたるCSR 活動をこれまで展開してきました。その活動を創立80 周年記念事業「いきものがたりプロジェクト」として一体化し、持続性、発展性、ストーリー性のある活動を3月末まで行いました。 地域社会との共存共栄 創立80周年記念事業 いきものがたりプロジェクト 「CSR のしがぎん」というブランド戦略のもと、多岐にわたるCSR 活動をこれまで展開してきました。その活動を創立80 周年記念事業「いきものがたりプロジェクト」として一体化し、持続性、発展性、ストーリー性のある活動を3月末まで行いました。  しがぎん福祉基金贈呈式 開催日：平成25年4月24日(水) 創立50周年に設立した社会福祉法人しがぎん福祉基金は幅広く福祉活動に助成しています。  外来魚駆除・釣りボランティア 開催日：平成25年5月18日(土) 琵琶湖の生態系を取り戻すために実施。520名が参加し、1日で2,507匹、60.9kg分のブルーギルを釣り上げました。  学校ビオトープ贈呈式 開催日：平成25年6月3日(月) 子供たちが自然や生き物とふれあい、環境を学習する場を提供しています。  「ペットボトルキャップ」リサイクル活動 実施期間：平成25年7月1日～10月18日 回収したキャップ113,197個をNPO法人エコキャップ推進協会等へ寄贈。世界の子供たちへのワクチンや「再生プランター」等に生まれ変わりました。  「使用済み切手」回収活動 実施期間：平成25年7月1日～平成26年2月28日 回収した53.65kgの使用済み切手は福祉団体に寄贈し、社会福祉に役立てられます。  ニゴロブナ・ワタカ放流事業へ170万円を寄贈 開催日：平成25年7月10日(水) 琵琶湖の固有種で絶滅危惧種のニゴロブナ・ワタカを保護・育成・放流しています。  森づくりサポート活動 開催日：平成25年8月24日(土) 植樹をしたびわこ地球市民の森で除草や枝打ちに680名が参加しました。創立70周年より続けている植樹合計は21,480本になりました。  ユニセフ外国コイン贈呈式 開催日：平成25年10月17日(木) 世界の子供たちのために役立ててもらうため、全支店に募金箱を設置。収集された外国コインや紙幣は36.8kgにのぼりました。  びわ湖環境ビジネスメッセ2013 出展 開催日：平成25年10月24日～26日(木～土) 「環境ビジネス支援」をテーマに環境経営や環境金融の取り組みを紹介しました。  伊吹のスキスキー 開催日：平成25年11月3日(日) 伊吹スキー場のスキー場の維持環境のために、スキスキーを実施。湖北エリア80名が参加しました。  ヨシ苗植え 開催日：平成25年11月16日(土) あやめ汽水泳場・農協周辺のゴミ拾いの後、360本のヨシ苗を植栽しました。ヨシ群落を「守り、育てる」活動の1つです。130名が参加。  ヨシ刈り 開催日：平成25年12月7日(土) 安土・西の湖で実施されたヨシ刈りには625名が参加。刈り取ったヨシは役職員の名刺に生まれ変わります。  ニゴロブナ・ワタカ放流式 開催日：平成26年1月25日(土) 今年度は環境対応型金融商品「カーボンニュートラルローン 未来よし」の拠出金によるニゴロブナ30,000匹、ワタカ40,000匹を放流しました。  ビワマス遡上プロジェクト 開催日：平成26年3月16日(日) 琵琶湖の固有種で準絶滅危惧種のビワマスを、役職員が卵から育て、米原市天野川支流に放流するプロジェクトを実施しました。

銀行名	南都銀行
タイトル	金融経済教育への取組み ～養護学校への講師派遣・職場実習
取組内容	【動機・経緯】 奈良県等と協力し地元企業として、障がい者雇用の支援等を強化するため実施 【取組み内容】 当行の金融経済教育の取組みの一環として、地元養護学校に対し以下のような取組み（講師派遣や職場実習の受け入れ等）を行った。 ① 養護学校への講師（行員）派遣による出張授業 →ビジネスマナーや金融経済等に関する講義の実施 ② 関連会社での職場体験実習 →行内メール便、郵便物発送等の体験実習 ③ 当行関連行事（顧客への「経営説明会」）における職場体験 →来場客の受付業務等を行員とともに体験 【取組みの効果】 ・ 仕事を通じ社会とつながっていることや、「働く」という意味、その他、銀行業務について学ぶことができたと参加者側から高い評価をいただいた。 ・ 26 年度は新たな取組みとして、「銀行の利用の仕方」について営業店窓口等での学習に協力させていただくことになった。

銀行名	紀陽銀行
タイトル	MoneyConnection®の実施
取組み内容	【動機（経緯）】 ○ 「働くこととお金」について学ぶ機会を提供するために当行は金銭基礎教育授業「MoneyConnection®」へ協賛している。 【取組み内容】 ○ 当行地域内の高校生を対象に公認実施団体として活動している特定非営利活動法人キャリア・ファシリテーター協会と協力し、認定講師による出張授業を年間13校、46クラス、1,566名（平成25年度）に実施している。 【取組みの効果】 ○ 当事業は地域の公認実施団体と地域の銀行が協力して実施する全国初の取組みである。 

銀行名	中国銀行
タイトル	「科学大好き岡山クラブ」、「エコノミクス甲子園 地方大会」の開催
取組み内容	【動機（経緯）】＜科学大好き岡山クラブについて＞ - 岡山から新しい時代のインシュタインを！」を合言葉に、次世代を担う技術者・科学者の育成に取り組んでほしいということで、岡山大学と提携し、小・中・高校生を対象にした科学クラブ「科学大好き岡山クラブ」を平成 20 年 4 月に立ち上げました。 （授業風景）  【動機（経緯）】＜エコノミクス甲子園 地方大会について＞ - 高校生の金融教育の一環として、平成 19 年 12 月より NPO 法人 金融知力普及協会と共催で、「エコノミクス甲子園」の地方大会を開催しております。 - 高校生の方々が楽しみながら金融経済について学んでいただけるよう、毎年趣向を凝らしながら開催しておりますが、年々参加者数も増加し、全国各地で行われる地方大会の中で岡山大会はトップの参加者数を誇る大会となっております。 - 平成 25 年度は県下から 23 の高校から、71 チーム 141 名の高校生が参加してくれました。 （優勝校の記念撮影） 

銀行名	広島銀行
タイトル	金融経済教育への取組み
取組み内容	【動機（経緯）】 ・銀行の役割、銀行の３大業務等を理解してもらうため、正しいお金の使い方、働くことの意義を理解してもらうために実施。 【取組み内容① 中学生、高校生向け】 ・午前は、経済活動の概要、銀行の役割、お金の大切さについて講義及び店舗の見学（窓口、貸金庫室、ＡＴＭコーナー）、ＤＭセンター、事務センター、屋上の慰霊碑等の見学を実施。 ・午後は、ひろしま美術館にて美術鑑賞を実施。 【取組み効果① 中学生、高校生向け】 ・経済、銀行の３大業務などの講義や関連部署等の見学により銀行の役割等を理解してもらうだけでなく、美術鑑賞も実施することにより、参加者から非常に高い評価をいただいている。 【取組み内容② 高校生向け】 ・当行の取締役の母校から講義の依頼があり、銀行業務、経済動向等について講義を実施。 【取組み効果② 高校生向け】 ・高校の卒業生である当行の取締役から、銀行、経済、自身の高校時代の話聞くことで、銀行業務や将来の職業に対する考え方等の参考となり、非常に高い評価をいただいた。 【取組み内容③ 小学生向け】 ・夏休みに「キッズマネースクール」を広島エリア、福山エリアを対象に各１回開催。 - 午前は、店舗の見学（窓口、貸金庫室、ＡＴＭコーナー）及びＡＴＭの体験等を実施。 - 午後は、外部講師（税理士）による、お金の大切さ、働くことの大切さ、税金の基礎知識について、クイズ形式にて講義を実施。 【取組み効果③ 小学生向け】 ・夏休みの課題研究の一環として、日ごろ見ることのできない銀行内の見学や体験等を通じて、お金や働くことに対する意識が高まることから、保護者及び小学生から非常に高い評価をいただいている。

銀行名	山口銀行
タイトル	社会貢献への取組み
取組み内容	1. 青少年育成支援 - 平成 24 年度より取組開始した、地元の高校生を対象に金融経済教育を通じた地域貢献活動の一環である第 8 回全国高校生金融経済クイズ選手権「エコノミクス甲子園」の山口大会を、平成 25 年度も開催した。(継続取組み) - 平成 24 年度より取組開始した、劇団四季(四季株式会社)が演劇を通じて子供たちの健全な育成に資することを目的に行っている大型児童招待事業「こころの劇場」山口公演への協賛を、平成 25 年度も行った。(継続取組み) - やまぎん史料館を活用し、小学生夏休みセミナーや各種講演会などの開催を通じて、地域の皆様の交流・憩い・学びの場を引続き提供した。(継続取組み) 2. 地域と海外の交流 - 昭和 61 年から実施している地元大学の聴講留学生支援を平成 25 年度も中国・タイ・トルコの留学生受入(受入累計 146 名)で実施した。(継続取組み) - 平成 4 年から地元下関市と友好都市の締結をしている中国・青島市において、「山口銀行杯日本語弁論大会」を継続開催しており、今年で 12 回目となった。(継続取組み) - 平成 5 年から当行青島支店がある中国・青島市の上清路小学校、また平成 10 年から大連支店がある中国・大連市の周水子小学校より、両校の教師と「小さな親切」運動の善行児童を下関に招聘し、地元下関市の小学校との交流支援を行っている。(継続取組み) - 上記の国際交流活動が認められ、日中両国の友好親善や相互理解に長年貢献したとして、平成 25 年度の外務大臣表彰を受賞した。 3. スポーツ・文化支援活動 - 平成 23 年度に山口県で開催された「山口国体・山口大会」で高まった競技水準を維持・向上させ、スポーツ振興による豊かな社会作りの一助とするため、平成 25 年度も山口県体育協会への寄付を実施した。(継続取組み) - 平成 24 年度と同様に、下関海響マラソンへの協賛、YMFG レディースサッカー大会・やまぎんカップ女子サッカー大会・やまぎんコンサートを開催。(継続取組み) 4. 森林整備活動 - 平成 23 年度に取組開始した森林整備活動「未来へつなげよう『やまぎんの森』」に継続取組。(継続取組み) 5. 節電・CO²削減 - 平成 24 年度同様、クールビズ・ウォームビズ、毎月 1 回の一斉消灯日・ノーマイカーデーなどを継続実施。(継続取組み)

銀行名	阿波銀行
タイトル	青少年の金融教育に取り組んでいます
取組み内容	金融について学び、正しい金銭感覚を身につけてもらうため、徳島県内の小 学校で当行職員が教壇に立つ、「あわぎん子ども金融教室」を平成１８年から開 催しています。 また、県内の小中学校で、銀行の役割やビジネスマナーに関する出前授業を 随時開催しているほか、徳島大学の「起業力養成講座」へも当行職員を講師と して派遣しています。 さらに、毎年夏休みには「夏休み親子ふれあい金融機関見学会」を継続的に 実施し、金融や銀行について楽しく学べる機会を提供しています。 

銀行名	百十四銀行
タイトル	金融教育活動
取組み内容	【動機（経緯）】 将来を担う子どもたちにとって、お金の流れや経済の仕組みを学ぶことは重要であると考え、小・中・高・大学生の段階に応じて金融知力を身につけることができる機会を提供するために様々な金融教育活動を行っている。 【取組み内容】 ①地元大学法学部特別講義 金融業界について理解を深めていただくため、行員が講師となり、銀行業務について法律との関係を交えながら講義を行っている。 ②エコノミクス甲子園 高校生を対象にした金融知力を身につけるクイズ大会で、平成20年より毎年開催している。 ③職場体験学習 各営業店が、地元の中学校などを主たる対象としてさまざまなカリキュラムを企画し、ロビーマネージャーの体験や銀行内の見学、ビジネスマナーについての講習会などを開催している。 ④親子体験教室 香川県金融広報委員会と連携し、小学生およびその保護者を対象に、銀行の基本的業務や紙幣の偽造防止技術についての話のほか、本店ビル内を見学したり、本物の1億円や1キロの金塊に触れる体験の機会を提供している。 【取組み効果】（上記取組み内容ごとに記載） ①就職する前の早い段階から金融業界についての知見を広げる機会として大学側から好評を得ており、金融志望の学生への有用な情報提供にも役立っている。 ②クイズを通じて楽しみながら金融知力を身につける場として、また、金融に関する興味を持つ入口体験として役立っており、参加者からの評価も高い。 ③銀行とはどのような仕事をする所か行員の話を知ったり、実際に銀行内を見学することで、銀行の業務や役割、重要性についての理解が深まったという感想が多く聞かれている。また、生徒たちが将来の職業について考える機会としても役立っている。 ④参加した子どもたちや保護者から、銀行のお金を「預かる」「貸す」「送る」という仕事や金融について興味を持ったという感想が多く寄せられている。また、本物の1億円や金塊に触れる体験は参加した小学生だけでなく、保護者からも大変好評を得ており、銀行を身近に感じていただけるイベントとなっている。

銀行名	百十四銀行
タイトル	フォレストマッチング協働の森づくり活動
取組み内容	【動機（経緯）】 ・平成16年1月に発生した山林火災により、大きな被害を受けた香川県直島の緑を取り戻すために企画された「みどり創生 in 直島」に参加したのが当行の森林活動のはじまり。 ・香川県では、平成16年に台風災害、翌17年に大規模渇水に見舞われており、森林の整備と保全の重要性が強く認識されている。 ・森林は多様な機能を持っており、その保全活動は社会的意義があることから、創業130周年の記念行事、およびCSRの一環として、平成20年11月より香川県や高松市などとパートナー協定を結び、『百十四の森』づくり活動を開始。 【取組み内容】 ・平成20年～平成24年は、香川県高松市塩江町にて植林活動を実施。のべ217名の行員とその家族で0.7haにコナラを1,400本植林した。 ・香川県では数十年間植林中心の活動が行われてきた結果、植林はほぼ一巡しており、現在必要とされる活動は過去に植林された森林の除間伐・枝打ちと竹林整備に移ってきている。そのため、平成25年は、香川県丸亀市綾歌町にて過去に植林された森林の除間伐、枝打ち作業を行った。 ・今後は、この除間伐・枝打ち作業を行う森林保全活動に取組んでいくことにしている。 【取組みの効果】 ・行員の森林保全に対する理解が深まっていると同時に、若い行員も多く参加することで、社会貢献意識の高い行員の育成に役立っている。 ・平成24年までの植林活動におけるCO₂吸収量は、5年間の累計で8,400kg－CO₂の認定を受け、植林活動が環境保全に役立っている。

銀行名	百十四銀行
タイトル	「心の詩」コンサートの開催
取組み内容	【動機（経緯）】 ・お客さまの日頃のご愛顧に感謝し、地域文化に貢献できるよう、創業114周年を迎えた平成4年より毎年開催している。 ・地域の皆さまとより多くの「ふれあいの場」を持ち、豊かな地域社会作りに貢献することを目的としている。 【取組み内容】 ・コンサートは、ご応募いただいた方の中から抽選で無料ご招待している。 ・一般の方から、心に残った思い出を綴った随想文と思い出の曲を募集し、随想文の朗読と曲を演奏するスタイルで来場されたお客さまに楽しんでいただいている。 ・毎回ゲストをお迎えし、スペシャルコンサートも開催している。 【取組みの効果】 ・平成25年で22回目を迎えるが、早期に定員に達するなど、毎年ご好評いただいております、地元のイベントとして定着している。 ・コンサートを楽しみにしていただいているお客さまが多くおり、「あの随想作品がもう一度聞きたい」「毎年楽しみにしている」などのお声をいただいている。 ・地域の皆さまに銀行をより身近に感じていただく機会となっている。

銀行名	伊予銀行
タイトル	環境問題への取組み
取組み内容	【動機】 ・地域貢献活動の一環として、環境問題に取り組む団体等を支援する仕組みを構築するとともに、当行自身も環境問題に対して各種の対策に取り組んでいる。当行自身では、特に「森づくり」にフォーカスした活動を実施している。 【取組み内容】 ・当行の創業 130 周年（平成 20 年）を記念して設定した「公益信託 伊予銀行環境基金『エバーグリーン』」を通じて、環境問題に取り組んでいる団体等に助成金を贈呈した。 25 年度の実績は、10 先に対して 4,050 千円を助成した。 ・愛媛県の「企業の森」制度に則って地公体等と連携し、愛媛県内 4 か所に「伊予銀行エバーグリーンの森」を設け、植樹や下草狩り等の森林保全活動に取り組んでいる。 25 年度の実績は、3 回活動し 180 名の当行行員がボランティア活動を行った。 ・当行が中心となって、愛媛県・松山市・地元企業に呼びかけ、平成 22 年に『森のあるまちづくり』をすすめる会が発足した。本会では、会員企業が社有地等に植樹し、ふるさと愛媛を緑豊かな地域にしていこう活動を行っている。 25 年度の実績は、会員企業に参加を呼びかけ、3 回で 346 名が参加し、5,500 本の植樹を行った。 【取組みの効果】 ・環境基金の取組みは、累計で 81 先に 28,924 千円を助成し、地域の環境改善活動に一定の効果があったものと認識している。 ・「伊予銀行エバーグリーンの森」活動は、平成 20 年から毎年活動を続けており、行員自身が汗をかき、環境問題に取り組むことができている。 ・『森のあるまちづくり』を通じた活動では、累計で 41,568 本の植樹実績があり、当行のみならず、地域の会員企業とともに環境問題に取り組んでいることが地域への広がりという点で、特に評価できる活動であると認識している。

平成26年3月31日

No. 14-062

株式会社 伊予銀行

番町記者クラブ各位

公益信託 伊予銀行環境基金「エバーグリーン」の助成対象先を募集します

～ふるさとの豊かな自然を次世代に残すために～

株式会社 伊予銀行（頭取 大塚 岩男）は、公益信託 伊予銀行環境基金「エバーグリーン」の平成26年度助成対象先を募集しますので、下記のとおりお知らせいたします。

同基金は、環境保護活動に積極的に取り組まれている皆さまのお役に立ちたいとの思いから、平成20年3月に創業130周年を記念して創設したものです。創設から現在までの間に、81先の団体の皆さまに合計2,892万円を助成しています。

記

○募集概要

項 目	内 容
助 成 対 象 者	愛媛県内に主たる活動拠点がある、公益法人、特定非営利活動法人、学校、任意団体（法人格の有無は問わない）等、若しくは個人
助 成 対 象 事 業	自然環境保護活動等
募 集 期 間	平成26年4月1日（火）～平成26年8月31日（日）
助 成 金 額	原則として1件50万円以内
選 考 通 知	平成26年10月頃開催予定の運営委員会にて決定後書面にて通知
応 募 方 法	所定の「申請書」にご記入いただきご応募ください。
申請書取得方法	以下、①～③のいずれかの方法で取得ください。 ①当行本支店窓口で受領 ②当行ホームページからダウンロード ③三井住友信託銀行ホームページからダウンロード
申請書提出方法	以下、①、②のいずれかの方法でご提出ください。 ①伊予銀行本支店窓口へのご提出 ②三井住友信託銀行リテール受託業務部へのご郵送

※詳細は、別添の募集要項をご参照ください。

以 上

本件についてのご照会は下記までお願いいたします。
広報CSR室（担当：藤田） TEL089-941-1141 （内線：2251）

私たちはチャレンジします。みなさまの笑顔のために。

NEWS RELEASE

株式会社 伊予銀行 愛媛県松山市南堀端町1番地 〒790-8514 TEL(089) 941-1141

公益信託 伊予銀行環境基金『エバーグリーン』申込受付のお知らせ

この公益信託は、伊予銀行の発展を支えていただいた地域社会に貢献するため、美しい自然景観に恵まれた愛媛県内の自然を次代に引継ぎ、豊かで快適な地域環境を創造する活動を支援し、もって自然環境及び生物多様性の保全に寄与することを目的として発足したものです。

このたび、平成26年度の助成申し込みの受付を下記募集要項により行うことにいたしましたので、文系・理系を問わず広く応募ください。

【募集要項】

1. 助成対象

(1) 助成対象者

愛媛県内に主たる活動拠点がある、公益法人、特定非営利活動法人、学校、任意団体(法人格の有無は問わない)等、若しくは個人。

(2) 助成対象事業

- ①森林、海岸、河川、緑地、池沼、植物自生地、動物生息地等自然のままで保存すべき地域における植林、景観の復旧、動植物の保護等
- ②上記①の地域の環境の汚染又は破壊の防止につながるゴミ、廃棄物投棄の防止又はこれらの除去、又は清掃等
- ③すぐれた自然環境のなかで行われる自然観察会等
- ④生物多様性保全への理解促進のための広報及び自然保護の実践に資する調査・研究
- ⑤生物多様性保全への理解促進のための絵本、資料、視聴覚教材等の作成、配布
- ⑥生物多様性保全への理解促進のための展覧会、シンポジウム、研修会、交流会等の開催又はこれらへの参加
- ⑦上記以外の自然環境及び生物多様性の保全や災害防止、再生可能エネルギーの普及に寄与する新しいテーマによる活動

(3) 助成対象期間

平成26年4月1日～平成27年8月31日の間に実施する事業に使用した金額への助成。

2. 助成金額

原則として1件50万円以内とする。

3. 募集期間

平成26年4月1日～平成26年8月31日（当日消印有効）

4. 応募方法

当基金所定の申請書に必要事項を記入し、後記宛先へご郵送ください。申請書類は、伊予銀行の本・支店にご提出いただいても結構です。申請書は後記照会先記載のURLからダウンロードしてください（お電話でのご請求も承ります）。

なお、応募書類は返却いたしませんのでご了承ください。

5. 選考及び通知

平成26年10月頃開催予定の当基金運営委員会において選考決定の上、その結果を書面にてお知らせします。

なお、選考漏れの場合、その根拠・理由等のお問い合わせにつきましてはお答えできませんのでご了承ください。

6. その他

(1) 活動成果及び助成金の使用結果について使用報告書及び成果報告書をご提出いただきます。

(2) 偽りその他不正な手続により助成金の交付を受けたり、又目的以外に費消したときは、授与した助成金は返還して頂きます。

7. 申請書の資料請求先・提出先

〒790-8514 松山市南堀端町1番地

伊予銀行 広報CSR室

公益信託 伊予銀行環境基金『エバーグリーン』担当

TEL 089-941-1141(受付：平日9時～17時) FAX 089-946-9104

若しくは

〒105-8574 東京都港区芝3-33-1

三井住友信託銀行 リテール受託業務部 公益信託グループ

公益信託 伊予銀行環境基金『エバーグリーン』申請口

TEL 03-5232-8910(受付：平日9時～17時) FAX 03-5232-8919

申請書掲載URL <http://www.smtb.jp/personal/entrustment/management/public/example/list.htm>

番町記者クラブ各位

平成26年3月6日

No. 14-041

株式会社 伊予銀行

「伊予銀行エバーグリーン^{もり}の森」森林づくり活動実施のお知らせ
～豊かな森林を次の世代に残すために～

株式会社伊予銀行（頭取 大塚 岩男）は、西条市において「伊予銀行エバーグリーンの森」森林づくり活動を実施いたしますので、下記のとおりお知らせいたします。

この活動は、愛媛県の「企業の森」制度に則して、平成20年に愛媛県、大洲市、（財）愛媛の森林基金と「『伊予銀行エバーグリーン^{もり}の森』森林づくり活動協定」を締結したもので、昨年3月には新たに2箇所の活動場所を加えており、今回の活動場所となる「伊予銀行エバーグリーン^{もり}の森（東予）」では初めての活動となります。

当日は、当行の役職員約30名のボランティアが、ヤマモモやヤマザクラ70本の植樹を行います。

今後も、豊かな自然環境を子どもたちに引き継ぐ活動を、地域の皆さまと協力して実施いたします。

記

○「伊予銀行エバーグリーン^{もり}の森（東予）」活動

項 目	内 容
日 時	平成26年3月8日（土） 9：30～ 開始式 看板除幕、記念樹植樹 10：00～ 植樹活動 11：00～ 東予の森の現状 11：30 解散
開催場所	「伊予銀行エバーグリーン ^{もり} の森（東予）」（西条市福成寺） ※詳細は別紙地図をご参照ください。
活動内容	・記念樹（クスノキ）植樹 ・ヤマモモ50本、ヤマザクラ20本植樹
参加人数	当行役職員のボランティア約30名
そ の 他	荒天中止（少雨決行）

以上

本件に関するご照会は下記までお願いいたします。
広報CSR室（担当：藤田、佐藤） TEL 089-941-1141（内線：2251、2239）

1. 「伊予銀行エバーグリーンの森(東予)」

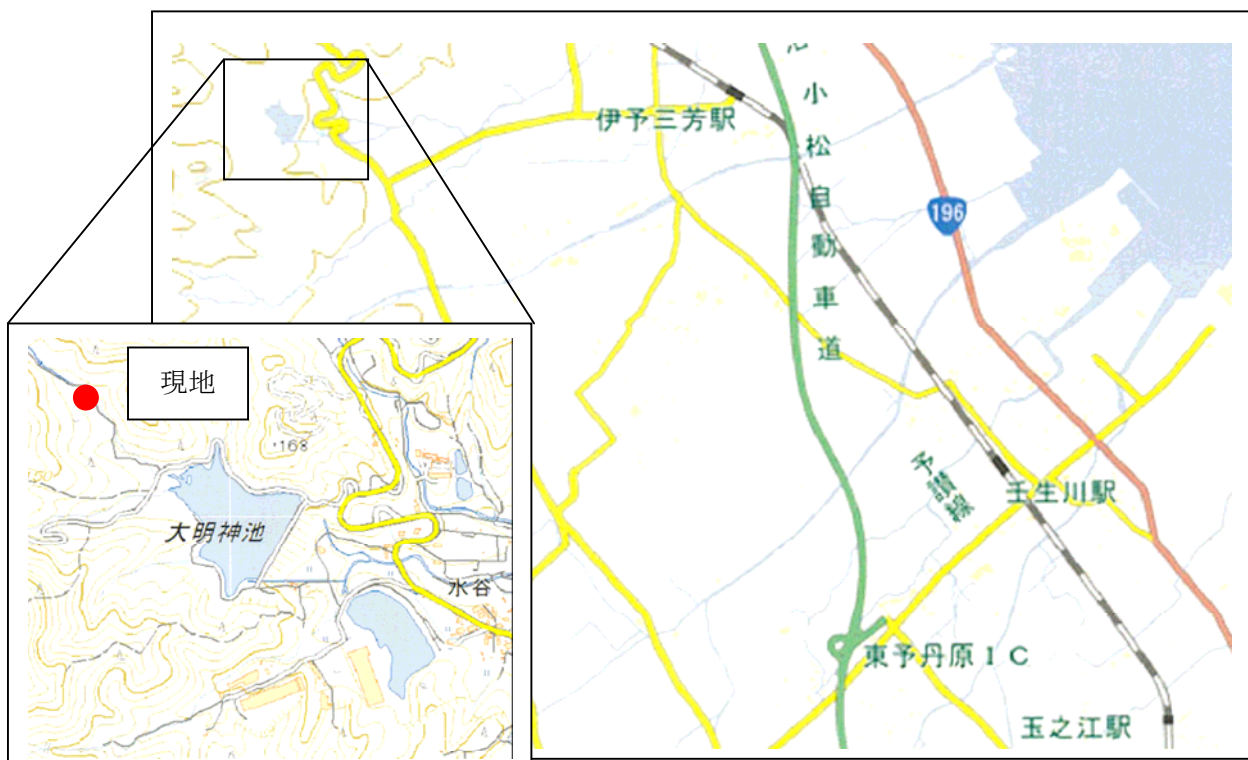
所 在 地	西条市福成寺
面 積	6. 3 7ヘクタール
森林所有者	愛媛県
森林の概要	「伊予銀行エバーグリーンの森(東予)」は、旧東予市全域を流域とする北川の上流に位置する大明神池に隣接するエリアを活動域としています。北川は、沿川地域への洪水氾濫を抑制及び防止する役割をしており、この自然環境・生活環境と一体となった森は、未来に引き継ぐ大切な里山で、自然環境に親しむ場としていくためにも、植栽による再生が必要な場所です。
活動内容	定期的に当行行員が中心となって、森林と親しむ環境整備を図ります。具体的には、土地にあった樹種の植樹及び植樹後の環境保全のための下刈り、間伐による森林保全活動などを行います。

2. 「伊予銀行エバーグリーンの森」森林づくり活動における取組み

- (1) 当行役職員等による森林づくり活動（ボランティア）
- (2) 協定森林における森林づくり活動等に対する寄付（毎年度1百万円、計5回）
- (3) 活動内容の情報発信

3. 所在地図

東予丹原 I C から約 9km.



銀行名	伊予銀行
タイトル	学生の年齢層に応じた金融経済教育への取組み
取組み内容	【動機】 ・愛媛県の将来を担う学生に、「銀行業務の仕組み」や「健全な金銭感覚」等を学んでもらうことを目的に実施した。 【取組み内容】 ・小学生を対象に、春休みや夏休み期間等を利用して「キッズセミナー」を開催し、ゲーム等を交えながら楽しく銀行業務への理解浸透に貢献した。 25年度の開催内容は、合計で20回、参加生徒数は723名である。 ・高校生を対象に、金融知力普及協会と連携して「エコノミクス甲子園 愛媛大会」を開催し、金融リテラシーの向上に貢献した。 25年度の開催内容は、愛媛県の高校7校から19チーム36名が参加した。 ・小学生から大学生まで幅広い年代層を対象に、職場見学会、職場体験学習・インターンシップ、講師派遣・出前授業を行い、銀行業務への理解浸透に貢献した。 25年度の開催内容は以下のとおりで、合計で41回、902名が参加した。 － 小学生の職場見学会：9回、150名が参加 － 中学生の職場体験学習・インターンシップ：13回、100名が参加 － 中学生への講師派遣・出前授業：1回、24名が参加 － 高校生の職場体験学習・インターンシップ：11回、286名が参加 － 高校生への講師派遣・出前授業：4回、303名が参加 － 専門学校生への職場見学会：1回、14名が参加 － 大学生の職場体験学習：2回、25名が参加 【取組みの効果】 ・小学生向けの「キッズセミナー」は、参加者および同席の保護者から高評価をいただいております。参加者は増加傾向にある。なお、26年度の春休みには、コンビニエンスストア業態と連携して、銀行業務とコンビニ経営の両方が理解できるような内容で開催するなど新たな取組みも行っている。 ・職場見学会や職場体験学習等への参加者からは、銀行業務がよく理解できたと高評価をいただいている。特に、一般的には銀行業務といえば窓口業務を連想するようであり、実際の営業活動や銀行の公共性等への理解が深まったとの感想が多い。その他、地域貢献活動等にも理解が深まったとの感想もあり、銀行が行う多様な取組みへの理解浸透が図られていると考える。

感謝の心をこめて

Challenge & Smile



番町記者クラブ各位

平成26年3月6日

No.14-042

株式会社 伊予銀行

いよぎん金融教育教室「春のキッズセミナー」を開催します

～サークルケイ四国様、サンクス西四国様と共同開催～

株式会社 伊予銀行（頭取 大塚 岩男）は、春休み期間に愛媛県内3つの会場でいよぎん金融教育教室「春のキッズセミナー」を開催いたしますので、下記のとおりお知らせします。

「キッズセミナー」は、小学生5・6年生の皆さんに「銀行の仕組み」や「健全な金銭感覚」などを学んでいただくことを目的に平成19年から開催しているもので、今回は、サークルケイ四国株式会社様、サンクス西四国株式会社様と共同して、小学生の皆さんに銀行・コンビニの仕事やコンビニの目玉商品開発などの特別プログラムを体験いただく予定です。

記

○開催概要

項 目	内 容		
開 催 日	4月3日（木）	4月4日（金）	4月5日（土）
場 所	伊予銀行宇和島支店	伊予銀行今治支店	伊予銀行本店南別館
時 間	各会場 10:00～15:30		
主な プログラム	・コンビニや銀行の仕事を学ぼう ・経営について学ぼう ・コンビニ店長になって目玉商品を開発しよう		
対 象 者	小学校新5、6年生（保護者の方も見学いただけます）		
人 数	各会場 30名		
参 加 費	無 料		
申込方法	メールで、当行広報CSR室宛にお申し込み下さい。 〔アドレス〕 iyo011hkn1@iyobank.co.jp □締切日 3月23日（日）※定員に達し次第、締め切らせていただきます。		

○金融経済教育への取組み

「キッズセミナー」以外にも、当行が作成した教材を活用して、小・中・高校生、大学生、社会人向けに幅広い金融経済教育活動を行っております。学校の教室、体育館やその他施設への講師派遣も行っておりますのでお気軽にご相談ください。

以 上

本件についてのお問合せは下記までお願いします。

広報CSR室（担当：日野、宮内）TEL089-941-1141（内線：2257、2233）

私たちはチャレンジします。みなさまの笑顔のために。

NEWS RELEASE

株式会社 伊予銀行 愛媛県松山市南堀端町1番地 〒790-8514 TEL(089) 941-1141

伊予銀行・サークルケイ四国・サンクス西四国共同開催

いよぎん金融教育教室「春のキッズセミナー」

～夢のコンビニをつくろう！～のご案内

開催地区	宇和島会場	今治会場	松山会場
日程	4/3（木）	4/4（金）	4/5（土）
会場	伊予銀行 宇和島支店 宇和島市新町2丁目8-3	伊予銀行 今治支店 今治市常盤町4丁目2-1	伊予銀行 本店南別館 松山市三番町5丁目10-1
時間	10：00～15：30		
対象・定員	小学校 新5～6年生 30名（保護者の方も見学できます。） 先着順で、定員に達し次第、締め切らせていただきます。 申込み状況は当行ホームページでご確認いただけます。		
申込み締め切り	3/23（日）申込み分まで		
プログラム	10:00	オリエンテーション	
	10:10	自己紹介（じこしょうかい） コンビニ・銀行の仕事を学ぼう あいさつのれんしゅうをしよう 経営（けいえい）について学ぼう	
	12:20	昼食きゅうけい ☆お弁当を用意しています	
	13:00	コンビニ店長になろう お金の計画を立ててみよう 目玉商品を開発（かいはつ）しよう 商品の販売（はんばい）を体験（たいけん）しよう	
	15:00	修了式・記念さつえい	
ご準備いただくもの	筆記用具		
昼食	お弁当とお茶をご用意いたします。（保護者の方にもご用意いたします）		
申込方法	メールにて下記の10項目をご連絡下さい。 【メールアドレス】 iyo011hkn1@iyobank.co.jp ①お名前 ②ふりがな ③性別 ④学校名 ⑤新学年 ⑥ご住所 ⑦電話番号 ⑧保護者・同行者参加の有無（人数） ⑨参加希望会場 ⑩お弁当希望数※ ※サークルKのお弁当をご用意いたします。アレルギー等のある方は、各自でご用意下さい。		
伊予銀行ホームページ	http://www.iyobank.co.jp/kids/news/index.htm HPからも申込みいただけます。		
お問い合わせは伊予銀行広報CSR室 金融教育担当 日野・宮内まで。【電話番号】（089）941-1141 （平日9:00～17:30まで）			

①申込者の個人情報は、当セミナーに関する事務以外に使用することはありません。

②セミナーの様子を撮影し、当行ならびにサークルケイ四国、サンクス西四国のホームページ、冊子などに掲載する場合があります。ご了承下さい。

③伊予銀行は、愛媛県教育委員会と「えひめ家庭教育サポート企業連携事業協定」を締結しており、セミナーの開催や職場体験学習の受け入れなどで家庭教育をサポートいたします。

銀行名	伊予銀行
タイトル	地域の草の根文化を保存する助成活動への取組み
取組み内容	【動機】 ・地域文化の発展と向上のお役に立ちたいとの思いから、平成４年より「伊予銀行 地域文化活動助成制度」の活動を始め、愛媛県内で伝統性のある草の根的な文化活動を継続している団体等に活動資金の一部を助成している。 【取組み内容】 ・年度で２回、愛媛県内で文化活動を継承している団体からの助成金申請を受け、有識者から成る「伊予銀行文化振興顧問団」の意見を参考に審議して助成金を交付する。 ・例年４月と１０月に助成先を決定しており、２５年度は合計で３４先、５,８００千円の助成金を交付した。 分野ごとの内訳としては、以下のとおりである。 － 郷土芸能分野：１５先 － 文芸分野：１先 － 音楽分野：８先 － 創作芸能分野：４先 － 郷土史分野：２先 － 生活文化分野：３先 【取組みの効果】 ・本活動は、平成４年から２２年にわたる長期的なものであり、２５年度における助成累計は９５７先、１８１,８４０千円にのぼる。 助成先は言うまでもなく、ステークホルダーからも高評価を得ており、地域に発展の源泉を求める地方銀行の取組みとしては、地域の文化活動の保存・継承に大いに貢献している活動であると認識している。

銀行名	四国銀行
タイトル	環境保全への取組み
取組み内容	【経緯】 環境問題への取組みを重要な経営課題と位置付け、本店及び本店別館においてISO14001の認証を取得のうえ、省エネ・省資源、森林保全活動や環境関連商品の開発など積極的に環境保全活動に取り組んでいる。 【取組内容】 ＜「協働の森事業」への参加＞ 高知県、高知市と「協働の森事業」パートナーズ協定を締結、高知市鏡柿ノ又の市有林を「未来を鏡に～四銀絆の森」と名付け、当行行員および家族が、高知市の職員の方々が結成したNPO「こうち森林救援隊」と協働で間伐ボランティア活動を行っている。 ＜「四銀絆の森」交流会の開催＞ 「四銀絆の森」に毎年小学生や保護者を招待し交流会を開催している。交流会では植樹、間伐見学、木工教室などを実施し、森林の大切さを学んでもらっている。 ＜里山保全活動＞ 森林保全活動の一環として、里山および周辺の整備や清掃をNPOと協働で行っている。 平成25年度は、高知市筆山の公園の桜の木が長い年月で傷んで植え替えが必要になっていたことから、植え替えや周辺の整備を行った。 ＜環境関連商品の開発＞ 平成25年が当行の創業135周年であることから、平成25年7月に高知市よりオフセット・クレジット135tを移転・購入した。これは当行が間伐を行っている「四銀絆の森」が、高知市のCO2吸収プロジェクトに含まれることから、「四銀絆の森」で創出されたオフセット・クレジット28tの移転に加え、107tを追加購入したもの。 これを活用した環境配慮型商品「＜四銀＞「絆の森」カーボンオフセット定期預金・定期積金」を平成25年10月に発売。（取扱期間平成26年9月まで） 【取組みの効果】 ・間伐や里山の整備等により、当行行員の環境保全に対する意識が醸成されてきている。 ・「四銀絆の森」交流会への参加を通じ、小学生・保護者から「森林の大切さが実感できる」と好評を得ている。

銀行名	筑邦銀行
タイトル	P F Iの活用による定住促進と地域経済の活性化
取組み内容	・「P F I（プライベート・ファイナンス・イニシアティブ）」とは、公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金・経営能力及び技術的能力を活用して行なう手法。文化施設、医療施設、福祉施設、港湾、空港施設等の整備事業でもP F Iの活用が期待されている。 ・当行では、近隣自治体が行なう PFI 方式での定住促進住宅整備事業に際し、地元企業で構成されるコンソーシアム（協力企業）に事業計画の段階から関与し、施設整備費の融資取組みを実施。 ・今回の定住促進住宅は24戸の集合住宅で、地元の企業体で特別目的会社（S P C）である株式会社が設立され、施設整備と30年間の施設運営が民間に任せられたことから、地元経済の活性化が図られた。 また、24戸の内、半数以上は域外からの転入者であり、定住人口の増加にも寄与した。

銀行名	西日本シティ銀行
タイトル	「キッズ・サマー・キャンプ～お金のがっこう～」の開催
取組み内容	【動機（経緯）】 - 子どもたちが楽しみながら銀行の仕組みやお金の大切さについて学び、社会のことや将来のことを考えるきっかけとしてもらうために実施した。 【取組み内容】 - 金融経済教育の取組みの一環として、夏休みの1日を利用して、県内の小学生およびその保護者29組に集まっていただき、以下のプログラムで実施した。 －クイズ形式学習 ①お金の役割・銀行の役割についてのクイズ形式学習 ②名刺交換、札勘体験など －銀行を探検 銀行窓口、貸金庫室、コールセンター見学など －お金を体感 1億円や硬貨の重さ体感、外国コイン紹介 －窓口体験 女の子はテラー（窓口）、男の子はお客さま体験 【取組みの効果】 - お金や銀行の役割について学習した後、名刺交換の仕方、札勘を体験したり、1億円や硬貨の重さ体感、銀行の施設見学や窓口体験などを通して、銀行の仕事やお金の大切さについて学んでいただき、参加者、保護者からも非常に好評をいただいている。

銀行名	西日本シティ銀行
タイトル	全国高校生金融経済クイズ選手権 「エコノミクス甲子園」福岡大会の開催
取組み内容	【動機（経緯）】 - これから社会にはばたいていく高校生が、楽しみながら金融経済のしくみを学び、社会生活に役立つ実践的な金融知力を身につけてもらうために当行とグループ証券会社である西日本シティＴＴ証券との共催で実施した。 【取組み内容】 - 福岡県内の高校から２人１組で１４チーム（２８人）の高校生が参加し、筆記問題や早押しクイズに挑戦した。 【取組みの効果】 - 今回で８回目の開催となるが、毎回、参加者からは「金融経済についてより深く知ることが出来た」、「次回も参加したい」など好評をいただいている。

銀行名	西日本シティ銀行
タイトル	経済講演会の開催
取組み内容	【動機（経緯）】 ・ 地元の皆さまに最新の金融、経済情報をタイムリーにお届けするため、当行トップによる「経済講演会」を平成 20 年 1 月より開催している。 【取組み内容】 ・ 「2014 年 経済・金融の見通し～世界、日本、そして九州+アジア～」の演題で「経済講演会」を開催した。 ・ 講演では国際的な視点から、米国、中国、ユーロ経済、また、日本の経済政策について詳しく説明した。それらをベースにした地元九州経済の見通しやさらに、アジアと九州の歴史的、文化的な関係性についても解説した。 【取組みの効果】 ・ 平成 20 年 1 月より開催しており、地元企業や地域の皆さまにも非常に好評をいただいている。 ・ 当日は九州一円、また広島など遠方から約 550 名が参加され、参加の方は、メモを取るなど、熱心に聴講された。

銀行名	西日本シティ銀行
タイトル	全店一斉清掃ボランティア活動「地域のNCBクリーンデー」の開催
取組み内容	【動機（経緯）】 - 平成 21 年より地域金融機関として地域の環境美化に協力するため、全店一斉清掃ボランティア活動「地域のNCBクリーンデー」を毎年実施している。 【取組み内容】 - 支店などの職場単位で店周りや地元商店街、近くの公園などを2日間にわたり清掃した。また、本店近くで歴史的なお寺のある地区では、地域の皆さまと共同で清掃した。 【取組みの効果】 - 地域の皆さまと共同で清掃活動を実施するなど、地域の皆さまにも当行の活動が定着している。 - 本支店一体となり一斉に実施することで地域貢献に対する行員の意識づけを図ることができ、環境美化に貢献する活動として定着している。  

銀行名	西日本シティ銀行
タイトル	地域の歴史や文化を取り上げて、わかりやすく紹介する 「博多に強くなろう」「北九州に強くなろう」、「九州流」の発行
取組内容	【動機（経緯）】 ・ 意外に知らない地元の歴史やゆかりの人物、文化などをご紹介し、地域の活性化に貢献するために、2種類の広報誌を発行している。 【取組み内容】 ・ 「博多に強くなろう」「北九州に強くなろう」は、地元の身近な話題やゆかりの人物等を取り上げてわかりやすく紹介する刊行物として、昭和 54 年に創刊し、現在、通算 97 号を発行している。刊行誌は本店・支店の窓口に置いているほか、当行ウェブサイトにも全号掲載している。 ・ 「九州流」は九州の歴史・文化・アジアとの交流をテーマに、国際レベルの視点から地域の情報を掘り起こして発信する「ふるさと発見誌」として平成 21 年に創刊し、現在、通算 3 号を発行している。 【取組みの効果】 ・ 地元の身近な歴史・文化をわかりやすく学ぶことができ、地域の皆さまからも非常に好評をいただいております。バックナンバーの問い合わせなど多くの声が寄せられています。



銀行名	西日本シティ銀行
タイトル	お昼休みのクラシック演奏会「プロムナードコンサート」の実施
取組み内容	【動機（経緯）】 ・ 公益財団法人福岡文化財団と共催で、当行本店のある博多駅周辺にお勤めの方などにお昼休みの時間を楽しんでいただくため、クラシック演奏会を毎月1回開催している。 【取組み内容】 ・ 本店のエントランスホールで毎月1回、クラシック演奏会「プロムナードコンサート」を無料で開催している。毎年8月は映画音楽などクラシック以外の曲も演奏し、12月はユニセフチャリティ・クリスマスコンサートを開催している。 【取組みの効果】 ・ 昭和61年より開始し、平成26年6月で342回を迎え、お昼休みのコンサートとして地域の方々に親しまれ、好評をいただいている。 

銀行名	北九州銀行
タイトル	地域貢献に関する各種取り組み
取組み内容	(1) 語学教育の支援活動（継続取組、開始時期：平成 23 年 11 月） ・地元の小中学生が英語への関心を持ち、北九州から国際社会で活躍する人材の育成を支援することを主旨として、「北九州銀行杯小中学生イングリッシュコンテスト」を開催。 ・当行開業の年である平成 23 年に第 1 回目を開催し、第 3 回目となる今回は、北九州市の他、福岡市や熊本市から約 160 名の小中学生が参加。 ・小学生低学年の部、小学生高学年の部、中学生の部の 3 つ部門ごとに審査を行い、決勝大会は予選を突破した 30 名（各部門 10 名ずつ）が、英語スピーチを披露。 ・最優秀賞受賞者には、親子海外語学研修旅行を贈呈し、更なる語学研鑽を支援。 ・北九州市以外の参加者も増加し、保護者、学校関係者等様々な方面からも高い評価を得るなど、着実に定着化が図られている。 (2) 都市緑化支援活動（継続取組、開始時期：平成 23 年 10 月） ・ひまわり(北九州市の市花)の育成を通じて緑の普及・啓発を図り、郷土愛を育むことを主旨として、「ひまわり BIG りコンテスト」を北九州市と協力して開催。 ・北九州市内小学校 8 校が参加し、特別賞として 2 校に TENT を贈呈。 ・北九州市を通じた学校長懇談会等での PR 活動により、定着化が図られている。 (3) スポーツ支援活動（継続取組、開始時期：平成 24 年 2 月） ・地元唯一のプロスポーツチームであるギラヴァンツ北九州(サッカー J2 リーグ)のオフィシャルスポンサーとして、市民の皆様と一体となって応援し、地域の活性化を支援。 ・また、当行主催試合を開催するとともに、北九州市教育委員会を通じて、地元北九州市内の小中学生 80 名を招待した。 ・この他、売上金の一部がギラヴァンツ北九州の支援金となる飲料自動販売機（通称：ギラベンダー）を北九州エリア各本支店 13 店舗に設置している。 (4) 節電・CO2 削減活動（継続取組、開始時期：平成 23 年 10 月） ・クールビズ・ウォームビズ、毎月 1 回の一斉消灯日・ノーマイカーデーなどを継続実施し、北九州市ノーマイカー推進運動にも参加。 ・また、北九州市より当行の環境問題等への取組が評価され、平成 26 年 5 月に北九州市「グリーンフロンティア表彰」を受賞した。 (5) 清掃による街並み美化活動（継続取組、開始時期：平成 24 年 4 月） ・心のかようあたたかな社会作りを目指し、青少年の心の育成事業などを展開する「小さな親切運動」北九州市本部に加入している。 ・当行では、北九州市内各所で行われる「日本列島クリーン大作戦」に毎年継続して参加しており、清掃活動による街並みの美化に取り組んでいる。

銀行名	親和銀行
タイトル	大学生向けマネープランセミナーの実施
取組み内容	【動機（経緯）】 ふくおかフィナンシャルグループおよび当行では、C S R活動において「環境共生活動」「生涯学習支援」「ユニバーサルアクション」の3つの活動層を重点分野として設定しており、本件は「生涯学習支援」メニューの一つ「顧客向けセミナーの拡充」の一環として実施したもの。 【取組内容】 地元の大学にて25年度に計2回、約200名の学生向けにセミナーを開催。行員が大学に赴き、授業の1コマを使って、各年代ごとのライフイベントと必要資金、資産運用の必要性などについて説明を行った。 【効果】 「貯蓄」から「投資」へといった昨今の流れや、金融詐欺等の防止といった観点から「金融教育」に対する関心が高まっているなか、「金融リテラシー」向上の一助となるような今回のセミナーは、大学・講師側からも非常に歓迎された。また、実際に受講した学生からも「普段あまり聞かない有意義な内容であった」「自分の将来やお金について、改めて考える良い機会になった」「日本の財政や年金問題、国際情勢など興味深かった」といった意見に加え、「銀行や銀行員をこれまで以上に身近に感じられた」といった意見もあり、双方にとって非常に意味のあるセミナーとなった。

銀行名	肥後銀行
タイトル	地域経済活性化への取り組み
取組み内容	【経緯】 ・地場企業の多様な経営ニーズや事業課題にお応えするために、セミナー開催等による情報提供に積極的に取り組んでいます。 【取り組み内容と効果】 (観光分野への取り組み) ・熊本ならではの自然・文化・交通・農業などの観光インフラを、県内の産業活性化に繋げるために、事業者の皆様に対する資金調達支援をはじめ、様々な経営課題解決の支援を行っています。 ・尚、平成25年10月から東海大学九州キャンパスと連携し、「観光経営力パワーアップ講座」を開講するなど、観光業の皆様の経営力強化、担い手育成を支援しております。 (農業分野への取り組み) ・熊本県基幹産業である農業の振興、活性化に貢献するため、農業経営者に対する運転資金・設備資金等の幅広い資金ニーズにお応えする体制を整えております。 ・尚、販路拡大や新事業展開など農業経営者が抱える事業課題に対する総合的な支援を行っております。その一環として、外部講師による「アグリビジネスセミナー」や商談会などの定期開催や、「肥後6次産業化ファンド」を通じた6次産業化の支援などを行っております。

銀行名	大分銀行
タイトル	「別府アルゲリッチ音楽祭」のサポート実施
取組み内容	【動機（経緯）】 ・「別府アルゲリッチ音楽祭」は、世界的ピアニストであるマルタ・アルゲリッチが総監督を務め、世界的ソリストとの競演を観ることができる大分県別府市で開催される音楽祭。世界でもここでしか体験できない希少価値の高い音楽祭を継続させるために、全面的にサポートする体制を作る。 【取組み内容】 ・これまで続けてきた協賛について、新設の特別協賛企業として今年から民間企業で最高額の協賛額とした。 ・当行行員6名を、会場内の受付等の企業ボランティアとして派遣した。 ・集客のためチケットをまとめて購入し、当行投資信託購入者の方に抽選で差し上げた。 【取組みの効果】 ・特別協賛企業の特典として、ポスター・パンフレット・チラシ・看板・ホームページ・音楽雑誌等様々なメディアに当行ブランドロゴや広告を掲載した。 ・近年課題となっていた、ボランティアのレベル低下防止に貢献した。 ・メインの2コンサート共満席でコンサート自体も非常に盛り上がり、来年以降の県外客の集客が期待される結果となった。

銀行名	鹿児島銀行
タイトル	森林整備への取り組み
取組み内容	【背景】 地球温暖化による気候変動が農業・観光業を主要産業とする鹿児島、宮崎に与える経済的損失は計り知れないものがあることから、環境保全に向けた基本理念、基本方針を定めた「鹿児島銀行環境方針」に基づき例年、森林整備活動を実施。 【取組み内容】 ・鹿児島県との「かごしま環境パートナーズ協定」により、鹿児島市内の県有林約3haの間伐を実施。 ・鹿児島県が主催する「九州森林の日」植樹祭に参加および協賛を実施（当行からは例年100名程参加）。 【成果】 平成25年度の間伐の結果、「かごしまCO2吸収量等認証制度」により121tのCO2吸収量の認証を獲得。 【参考：過去のCO2吸収量】 (120t/平成22年度分、132t/平成23年度分、106t/平成24年度分) 以上

銀行名	鹿児島銀行
タイトル	金融教育への取組み
取組み内容	【背景】 当行は、地域の生徒・学生の金融経済に対する興味・理解を深め、当行に対する親近感を高めていただくために、「金融教育を通じた地域貢献事業」を実施している。 【取組み内容】 1. 大学・短大生向けの取組み (1) 「インターンシップ」 ①目的 学生の企業研究の一助とすることを目的に講義と営業店見学等を組み込んだ5日間のプログラムを年1回実施（開催実績12回）。 ②内容 講義：「働くということ」「就職活動」「ビジネスマナー」「県内景況」「当行の取組み」「当行の能力開発制度」 見学：営業店、住宅センター、個人プラザWELL (2) 「かぎんスプリングセミナー」 ①目的 学生の就職活動開始を前に、社会人としての心構えや職業観の醸成につなげるために開催。 ②内容 講義：「働くということ」「鹿児島銀行の取組みについて」 先輩行員の経験談 情報交換 2. 中高生向けの取組み (1) 「職場体験学習・インターンシップ」 ①目的 中学・高校からの職場体験学習ニーズに応え、地域教育の充実に貢献するために開催。 ②内容 講義：「職場で望まれる人物像」「ビジネスマナー」「銀行の役割」「ローンとクレジット」 実習：あいさつ、札勘、電卓計算 など (2) 「全国高校生金融経済クイズ選手権 エコノミクス甲子園 鹿児島大会」 ①目的 高校生を対象に、金融経済の知識を楽しみながら身につけていただくために年1回開催（開催実績5回・参加チーム約40）。 ②内容 金融経済に関するクイズをチーム毎に予選・決勝ラウンドで競う。優勝チームは東京での全国大会に招待され、全国大会優勝チームはニューヨーク研修旅行に招待される。第1回大会、第4回大会にて、ラサール高校が全国優勝となった。

3. 小学生向けの取組み

(1) 「かぎん夏休み お金の教室」

①目的

金融経済に対する興味を深めていただくために年1回開催（開催実績5回）

②内容

「お金の使い方」や「鹿児島県の産業」に関する講義、クイズ大会、ゲーム。

【成果】

- ・各取組は開催回数を重ねてきたことでCSR活動の一環として定着し、参加者が年々増加している。
- ・参加者からは、金融知識の向上や参加者間での交流につながったと好評を得ている。

以上

銀行名	琉球銀行
タイトル	第 11 回 りゅうぎんキッズスクール
取組み内容 <動機（経緯、きっかけ等）成果（効果）>	【動機（経緯）】 ・ 県内の小学生に対して身近な環境を考えるきっかけを提供するサイエンス教室や、ゲームで楽しみながら、自然な形で世界経済や社会の仕組みを学ぶ体験参加型ビジネスシミュレーションゲームを通じ「お金」や「銀行」、「経済」について学ぶ機会を設けることにより金融知識の向上を図り、C S R 活動の一環として地域社会に貢献することを目的として開催した。 【取組み内容】 ・ サイエンス教室 「自分の体を通じて未来を支えるバイオ技術について考える」をテーマにDNA鑑定実験や環境について学ぶ。 ・ 経済教室 「お金」や「銀行」、「経済」について学ぶ機会を設けることにより金融知識の向上や社会知識の習得を図る。 ・ 8 月 7 日～8 日の 2 日間で合計 4 コマの教室を開催し、総勢 150 名の児童が参加し楽しみながら学習を行った。 【成果】 ・ 児童及び父母からの感想 児童父母からの評価は良好で、サイエンス教室では、実験結果から他のDNA等について興味を示している。 経済教室は、特に父母から経済についてうまく説明できなかったが子供たちも本教室により経済を分かりやすく体験できたと思うとの意見や、別の内容でのサイエンス教室も開催してほしいといった声を多数頂いている。

銀行名	琉球銀行
タイトル	りゅうぎんアントレプレナー支援セミナー
取組内容<動機（経緯、きっかけ等）成果（効果）>	【動機（経緯）】 ・沖縄を背負っていく若者（大学生や専門学校生など）を対象としたイベントがなかったことから将来の起業家を応援する仕組みづくりとしてキャリアイベントを開催した。 【取組内容】 ・若手起業家や学生団体を招聘した講演・対談およびパネルディスカッションを実施。また、就職活動など進路選択の岐路にある沖縄県内の大学生を対象として、自分が持つ夢に気づき未来について考えるきっかけづくり実施した。 第一部 基調講演（夢を叶えるアクション） ・D氏（13歳）E（株）取締役社長 ・F氏（15歳）（株）G CEO 若手起業家により、起業することがどのようなことなのか、起業する人とはどのような人なのか、起業した経緯やどのようなビジョンを実現してきたのか、目指している将来像について講演いただいた。 第二部 パネルディスカッション（新しい一歩を踏み出すには） 大学在学中の個人や学生団体の代表者に現在の活動内容やどのようなきっかけがあったのか、将来のビジョンについてのディスカッションを実施した。 【取組みの効果】 「アントレプレナー」とは必ずしも起業家を指すことばかりではないことについての理解や、一歩踏み出し活動をしている人たちが、自らの想いを伝えることで「アントレプレナー」になりたいという思いを引き出すことができ、アンケートの結果、さまざまな回答がある中、起業したいという答えが最も多かった。

銀行名	沖縄銀行
タイトル	名桜大学における講義【継続取組み】
取組み内容	【動機（経緯）】 ・ 当行は名桜大学と連携して、大学内で難民パネル展を開催した。目的は、大学生に難民支援等に関する認識を持ってもらうこと、医療等への関心を持ってもらうことであった。 ・ その難民パネル展に関わることで、当行としても大学生に対して何か協力できるものがないかを検討し、医療業界や経営に関する取組みについて大学側に説明した。 ・ 名桜大学の看護学科では、4年次に経営に関する講義があるとのことで、看護学生に看護職としての自覚を促し、今後の学習に対する意識づけを行いたいとの大学側からの依頼があった。 ・ 当行としては、CSRの観点及び将来、沖縄県の医療業界を支える人材の育成に貢献出来るものと考え、医療経営について講義する運びとなった。 【取組み内容】 ・ 名桜大学人間健康学部看護学科の4年生（約100名）に対し、「看護と経営」のテーマで講義を行った。 ・ 講義内容は、病院組織の理解、医療業界を取り巻く環境、医療サービスの特徴および医療を支える看護師のあり方、経営活動と看護管理の関係、診療報酬の仕組み、病院でのCSについて講義を行った。 【取組み効果】 ・ 名桜大学で医療経営に関する講義の結果としては、大学側や学生から病院の経営の仕組みや、患者に対する心構えなど事前に学ぶことができてよかったなどの意見を頂いており、当行が取組むCSR活動に貢献。 ・ 医療業界のみではなく、これから医療業界に関わる世代に対して、経営について学んでもらうことで、今後の医療の成長、発展に寄与、地域貢献・社会的貢献が図られた。 ・ 学生だけでなく、看護学科の講師も聴講しており、幅広く経営についての認識を持ってもらうことで、関係者の人材育成に対する貢献が図られた。